

柴田町休日部活動地域移行推進計画

令和6年12月26日

柴田町教育委員会

目 次

1 はじめに	P. 1
2 本町の現状と課題	P. 2-5
(1) 本町の児童・生徒数	
(2) 本町の部活動の設置状況	
(3) 地域クラブへの移行に伴う主な課題	
3 休日の部活動の地域移行に係るアンケート調査	P. 6-25
(1) 生徒・保護者対象アンケート結果（令和4年11月実施）	
(2) スポーツ少年団指導者アンケート結果（令和5年11月実施）	
(3) 教員アンケート結果（令和5年11月実施）	
(4) 部活動指導員アンケート結果（令和5年11月実施）	
(5) 小学5・6年生対象アンケート結果（令和6年10月実施）	
4 令和5年度柴田町学校部活動地域移行検討協議会からの助言	P. 26-27
5 休日部活動の地域移行の基本方針	P. 28-32
(1) 地域クラブへの移行について	
(2) 地域クラブの活動体制	
(3) 今後のスケジュール	
(4) 地域クラブの実現に向けた4つのポイント	
6 地域クラブの実施方法及び実施種目について	P. 33-36
(1) 実施方法について	
(2) 実施種目について	
(3) 平日部活動の地域クラブへの移行について	
7 これまでの検討経過について	P. 36-38

1 はじめに

部活動は、生徒の多様な学びや活躍の場として大きな役割を担ってきましたが、生徒数の減少による廃部や休部といった活動の縮小、部活動が教員の長時間労働の要因になっていること、指導経験の少ない教員への負担などが課題となっています。

そうした状況の中、スポーツ庁及び文化庁は、令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、令和5年度から令和7年度までを「改革推進期間」として位置づけ、休日の公立中学校の部活動を地域の活動へと移行する方向性を示しました。

宮城県においては、国が示したガイドラインを基に、令和5年3月に「学校部活動と地域のクラブ活動等のガイドライン」を策定し、学校、教員、地域の指導者、地域の団体等といった地域移行にかかわる団体及び人材に向けた指針を示しました。ガイドラインにおいて、地域移行に伴う県の目指す姿を示しており、柴田町においても、休日は、多くの子どもたちが自主的に地域のスポーツ活動や文化芸術活動に参加し、幅広い年代の交流活動を通して互いに高め合うとともに、地域活動が活発に行われる環境の整備を行います。

これまで柴田町では、教育委員会内において部活動調整会議を定期的に行い、国、県の方針等の内容把握や学校部活動の実態及びニーズの把握を目的としたアンケート調査を行ってきました。また、令和5年度には町内中学校長、保護者代表を含む有識者10人で構成する「学校部活動地域移行検討協議会」を設置し、休日部活動の地域移行に向けての課題を抽出し、課題対応策として柴田町教育委員会へ助言をいただきました。

この助言を基に、柴田町では将来にわたり、子どもたちがスポーツ及び文化芸術活動に継続して親しむことができ、様々な経験を通して新たな価値観や機会の創出ができる環境の整備を目的として、休日の学校部活動の地域移行を計画的に進めていくための「柴田町休日部活動地域移行推進計画」を策定します。

2 本町の現状と課題

(1) 本町の児童・生徒数

令和元年から令和12年までの本町の児童・生徒数の推移は図1、図2のようになっています。令和7年以降の児童・生徒数は、令和6年6月26日時点での見込みとなっています。

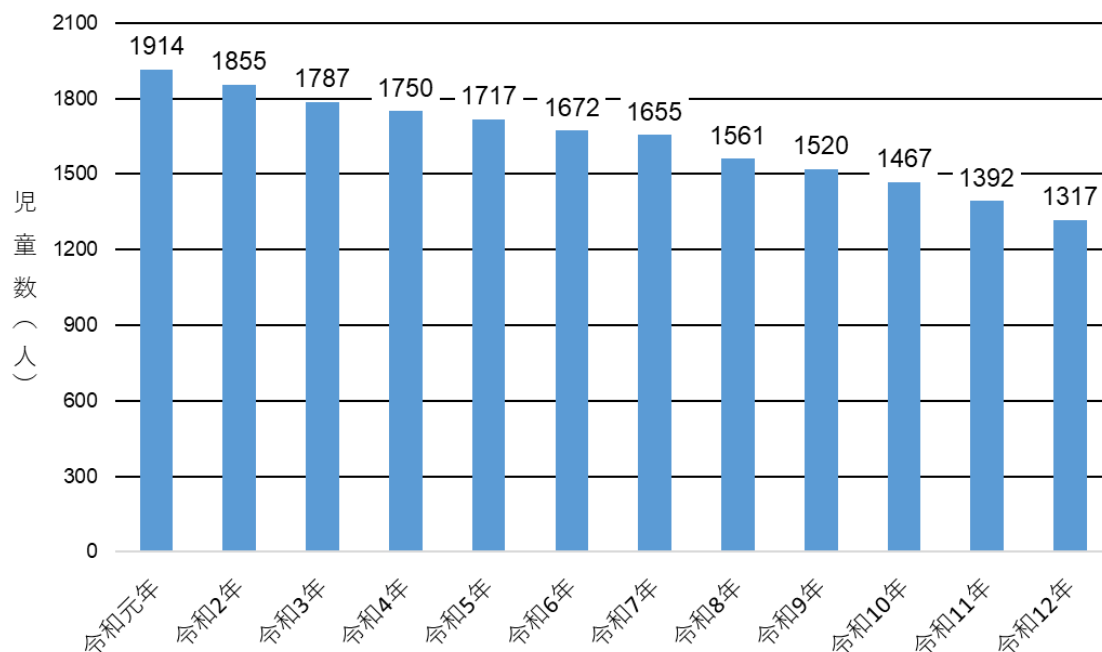


図1 町内小学校の児童数の推移

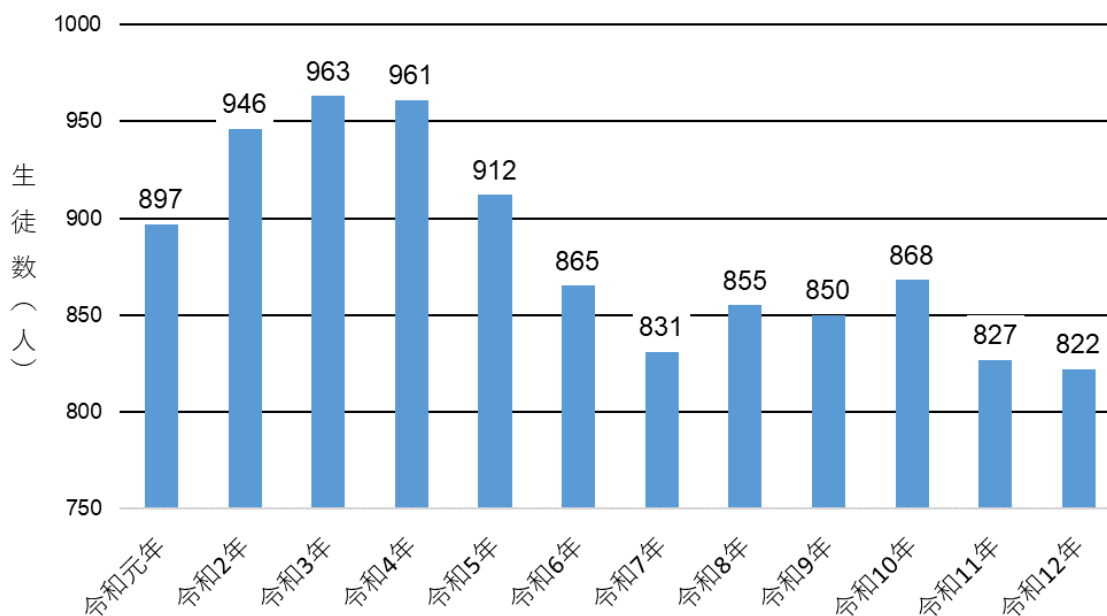


図2 町内中学校の生徒数の推移

児童数は令和元年から漸減しています。生徒数は令和元年から令和3年にかけては増加しましたが、令和3年から令和6年にかけて減少しており、今後は本町においても、少子化の影響により、児童・生徒数は減少傾向になると考えられます。

(2) 本町の部活動の設置状況

令和5年度、令和6年度の学校毎に設置されている部活動の種類、部員数、顧問の教員数、その他の外部指導者数の内訳は表1～表6のとおりです。前述のとおり、本町においても生徒数の減少により、今後は部員数が減少し、休部・廃部となる部活動が増加すると考えられます。

表1【船岡中学校】令和5年9月20日現在 ※1、2年生の合計

No.	部活動名	男子	女子	部員数 (男女計)	顧問数	うち 競技 経験者数	その他 外部指導者数 (ボランティア・部活動指導員・未来先生など含む)
1	野球	17人	0人	17人	2人	2人	
2	サッカー	16人	0人	16人	2人	1人	
3	男子テニス	34人	0人	34人	3人	1人	1人(ボランティア)
4	女子テニス	0人	5人	5人			
5	陸上	10人	10人	20人	1人	0人	
6	ソフトボール	0人	15人	15人	2人	1人	
7	バドミントン	0人	10人	10人	2人	1人	
8	剣道	5人	0人	5人	3人	2人	
9	柔道	5人	0人	5人		0人	
10	男子バレーボール	5人	0人	5人	3人	1人	1人(ボランティア)
11	女子バレーボール	0人	15人	15人			
12	男子バスケットボール	12人	0人	12人	3人	2人	
13	女子バスケットボール	0人	11人	11人			
14	卓球	19人	10人	29人	2人	1人	
15	水泳	2人	3人	5人	2人	0人	1人(ボランティア)
16	美術・写真	1人	21人	22人	1人	0人	
17	吹奏楽	15人	28人	43人	3人	3人	1人(部活動指導員)
合計		141人	128人	269人	29人	15人	4人

表2【槻木中学校】令和5年9月20日現在 ※1、2年生の合計

No.	部活動名	男子	女子	部員数 (男女計)	顧問数	うち 競技 経験者数	その他 外部指導者数 (ボランティア・部活動指導員・未来先生など含む)
1	野球	11人	2人	13人	2人	1人	1人(部活動指導員)
2	男子テニス	13人	0人	13人	2人	0人	
3	女子テニス	0人	12人	12人	1人	0人	
4	バドミントン	22人	7人	29人	3人	2人	
5	剣道	5人	4人	9人	2人	2人	
6	女子バレーボール	0人	10人	10人	2人	0人	1人(ボランティア)
7	男子バスケットボール	14人	0人	14人	1人	1人	
8	女子バスケットボール	0人	5人	5人	1人	0人	
9	卓球	14人	3人	17人	2人	0人	
10	総合文化部	1人	14人	15人	2人	1人	
11	吹奏楽	0人	9人	9人	2人	1人	
合計		80人	66人	146人	20人	8人	2人

表3【船迫中学校】令和5年9月20日現在 ※1、2年生の合計

No.	部活動名	男子	女子	部員数 (男女計)	顧問数	うち 競技 経験者数	その他 外部指導者数 (ボランティア・部活動指導員・未来先生など含む)
1	野球	7人	0人	7人	1人	0人	3人(未来先生)
2	サッカー	4人	0人	4人	1人	1人	
3	女子テニス	0人	13人	13人	1人	1人	2人(未来先生)
4	バドミントン	0人	19人	19人	2人	0人	2人(部活動指導員1人、未来先生1人)
5	剣道	21人	2人	23人	2人	1人	
6	女子バレーボール	0人	16人	16人	2人	0人	1人(部活動指導員)
7	男子バスケットボール	19人	0人	19人	2人	2人	1人(部活動指導員)
8	卓球	9人	0人	9人	2人	0人	1人(しばたっ子応援団)
9	吹奏楽	0人	8人	8人	1人	0人	1人(部活動指導員)
合計		60人	58人	118人	14人	5人	11人

表4【船岡中学校】令和6年5月20日現在 ※1～3年生の合計

No.	部活動名	男子	女子	部員数 (男女計)	顧問数	うち 競技 経験者数	その他 外部指導者数 (ボランティア・部活動指導員・未来先生など含む)
1	野球	24人	0人	24人	2人	2人	3人(未来先生)
2	サッカー	20人	3人	23人	3人	2人	
3	男子テニス	31人	0人	31人	3人	1人	6人(しばたっ子応援団3人、未来先生3人)
4	女子テニス	0人	21人	21人			
5	陸上	15人	11人	26人	2人	1人	6人(未来先生)
6	ソフトボール	0人	19人	19人	2人	1人	
7	バドミントン	0人	23人	23人	2人	0人	
8	剣道	11人	7人	18人	3人	2人	
9	柔道	5人	0人	5人		0人	
10	男子バレーボール	11人	0人	11人	1人	1人	
11	女子バレーボール	0人	18人	18人	1人	0人	
12	男子バスケットボール	20人	0人	20人	3人	3人	2人(男女:部活動指導員1人、男のみ:外部コーチ1人)
13	女子バスケットボール	0人	18人	18人			
14	卓球	25人	14人	39人	3人	2人	
15	水泳	3人	4人	7人	2人	0人	1人(しばたっ子応援団)
16	美術・写真	2人	29人	31人	1人	1人	
17	吹奏楽	9人	31人	40人	2人	2人	1人(部活動指導員)
合計		176人	198人	374人	30人	18人	19人

表5【槻木中学校】令和6年5月20日現在 ※1～3年生の合計

No.	部活動名	男子	女子	部員数 (男女計)	顧問数	うち 競技 経験者数	その他 外部指導者数 (ボランティア・部活動指導員・未来先生など含む)
1	野球	14人	2人	16人	2人	1人	1人(部活動指導員)
2	男子テニス	19人	0人	19人	2人	0人	
3	女子テニス	0人	19人	19人	2人	0人	
4	バドミントン	28人	8人	36人	2人	0人	1人(外部コーチ)
5	剣道	11人	6人	17人	2人	2人	
6	女子バレーボール	0人	17人	17人	2人	0人	
7	男子バスケットボール	20人	0人	20人	1人	1人	
8	女子バスケットボール	0人	6人	6人	1人	0人	
9	卓球	20人	2人	22人	2人	0人	
10	総合文化部	1人	20人	21人	2人	1人	
11	吹奏楽	2人	10人	12人	2人	2人	
合計		115人	90人	205人	20人	7人	2人

表6【船迫中学校】令和6年5月20日現在 ※1～3年生の合計

No.	部活動名	男子	女子	部員数 (男女計)	顧問数	うち 競技 経験者数	その他 外部指導者数 (ボランティア・部活動指導員・未来先生など含む)
1	野球	16人	0人	16人	2人	1人	川崎中、富岡中 合同チーム
2	サッカー	4人	0人	4人	1人	1人	川崎中、白石中 合同チーム
3	女子テニス	0人	24人	24人	2人	0人	2人(未来先生)
4	バドミントン	0人	24人	24人	2人	0人	1人(部活動指導員)
5	剣道	18人	2人	20人	2人	1人	
6	女子バレーボール	0人	17人	17人	2人	0人	1人(部活動指導員)
7	男子バスケットボール	18人	0人	18人	2人	1人	
8	卓球	15人	0人	15人	1人	0人	1人(ボランティア)
9	吹奏楽	0人	14人	14人	1人	0人	1人(部活動指導員)
合計		71人	81人	152人	15人	4人	6人

(3) 地域クラブへの移行に伴う主な課題

従来の学校部活動と地域クラブの主な違いは下記のとおりです。

①運営について

部活動は、学校が運営を行っていましたが、地域クラブは、地域のスポーツ・文化芸術団体等が運営を行う違いがあります。

②指導者について

部活動は、教員や部活動指導員が指導を行っていましたが、地域クラブは、地域の人材から指導者を確保し、地域の指導者が指導を行う違いがあります。

③活動場所について

部活動は、それぞれの学校施設で活動していましたが、地域クラブは、学校施設だけでなく、社会体育施設や社会教育施設等を活用し、活動する違いがあります。

④活動単位について

部活動は、各中学校でそれぞれ単独で活動していましたが、地域クラブは、同じ学校の生徒に限らず、他の学校の生徒と一緒に活動する違いがあります。

⑤保険について

部活動は、学校教育課程内で実施される活動であり、日本スポーツ振興センターの保険に加入していましたが、地域クラブは、学校教育課程外の活動となるため、民間の保険等、別の保険に加入する違いがあります。

区 分	学校部活動	地域クラブ
運 営	学校	地域のスポーツ・文化芸術団体
指 導 者	教員・部活動指導員	地域の指導者
活 動 場 所	学校施設	学校施設・社会施設等
活 動 単 位	学校単位	同じ学校に限らない
保 険	日本スポーツ振興センター	民間の保険
法的な区分	学校教育法	社会教育法

表 学校部活動と地域クラブの主な違い（宮城県教育庁参考資料）

地域クラブは、生徒の多様なニーズに対応し、スポーツ・文化芸術活動を継続して親しむことができるよう、地域の人材や施設を活用して行われる活動です。

地域クラブへ移行した場合、地域クラブは学校教育課程外の活動であり、社会教育法上の「社会教育」（主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。))の一環として捉えることができ、また、スポーツ基本法や文化芸術基本法上の「スポーツ」「文化芸術」として位置づけられるものであります。

これを踏まえ、学校部活動で担ってきた生徒のスポーツ・文化芸術の機会を地域スポーツ・文化芸術から支えていくという視点を有しつつ、新たな地域クラブ活動の在り方や運営体制、活動体制、指導者の確保、保険や会費といった受益者負担の発生、活動拠点の整備等の課題を解決する必要があります。

3 休日の部活動の地域移行に係るアンケート調査

本町では休日の部活動の地域移行を進めるにあたり、課題やニーズの確認のため、アンケート調査を実施しました。

アンケート調査はこれまで3回実施しており、令和4年度は町内の中学1・2年生の生徒及び保護者を対象に、令和5年度は町内のスポーツ少年団指導者、町内中学校教員、部活動指導員を対象に、そして、令和6年度は町内の小学5・6年生を対象に実施しました。

アンケート結果は学校部活動地域移行検討協議会で活用し、地域移行に向けた課題抽出、子どもたちの部活動への興味関心、ニーズの把握に役立てました。

(1) 生徒・保護者対象アンケート結果（令和4年11月実施）

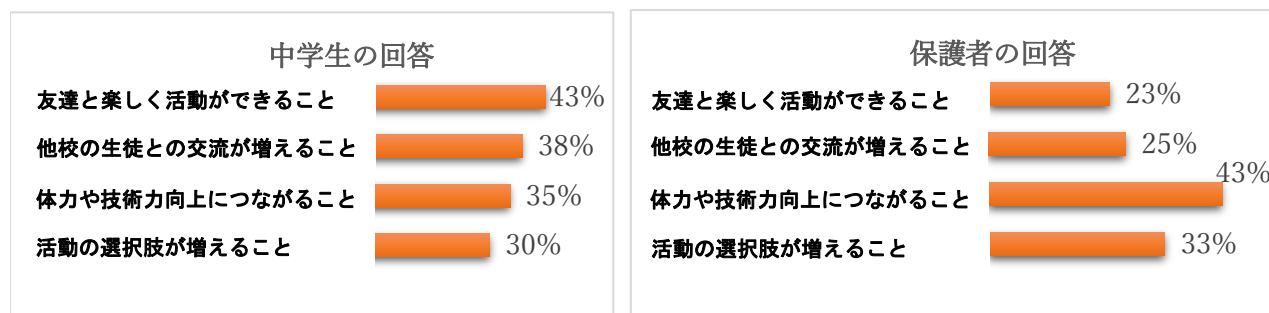
町内の中学1・2年生及び保護者を対象にアンケート調査を実施した結果、生徒440人、保護者146人から回答をいただきました。下記の表が、学年ごとの回答数を示しています。

中学2年生	173人	中学2年生（保護者）	64人
中学1年生	267人	中学1年生（保護者）	82人
合計	440人	合計	146人

町内中学生及び保護者の回答数

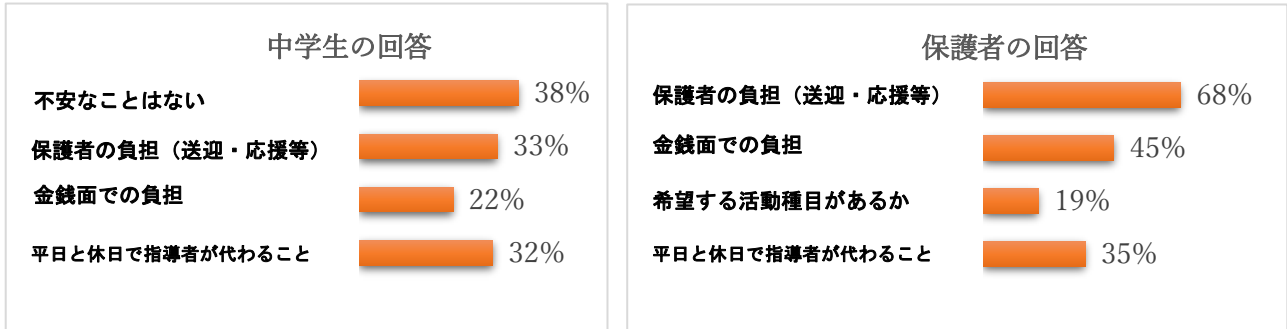
次に下記のグラフは、各項目においての中学生、保護者それぞれの回答の上位の内容を示しています。

1. 休日の部活動が地域に移行されることで期待すること。※複数回答可 上位4つ



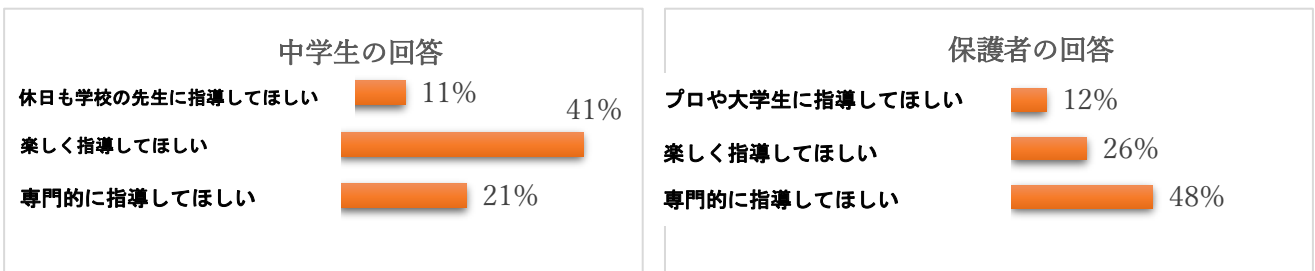
中学生は、「友達と楽しく活動ができること」保護者は、「体力や技術力向上につながる事」を期待する回答が多かったですが、期待する項目の上位4つは、中学生、保護者ともに同じ結果となりました。

2. 部活動が地域移行されることで不安なこと。※複数回答可 上位4つ



中学生の回答では、「不安なことはない」が多かったですが、「保護者の負担（送迎・応援等）」の回答が、中学生、保護者ともに多かったことは、活動場所が変わることによる送迎等の不安があると考えられます。

3. 休日の部活動が地域に移行されることで指導者に求めること。※複数回答可 上位3つ

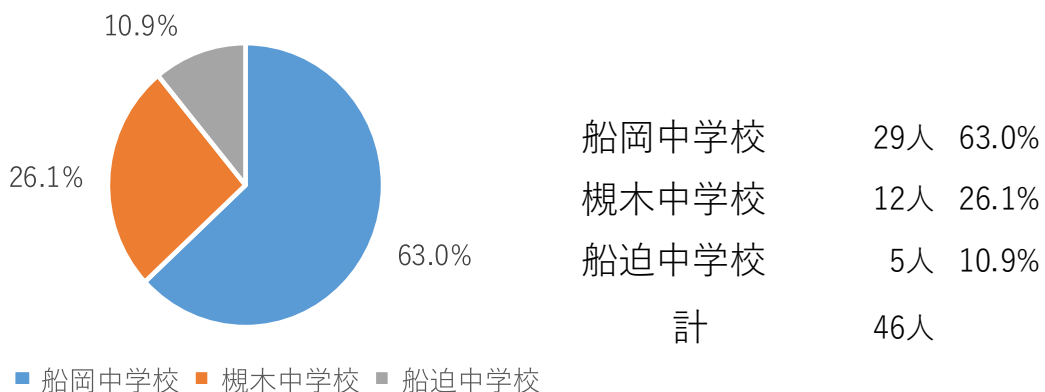


中学生は、「楽しく指導してほしい」、保護者は、「専門的に指導してほしい」の回答が多い結果となりましたが、中学生、保護者ともに「指導の内容」を重視していることが考えられます。

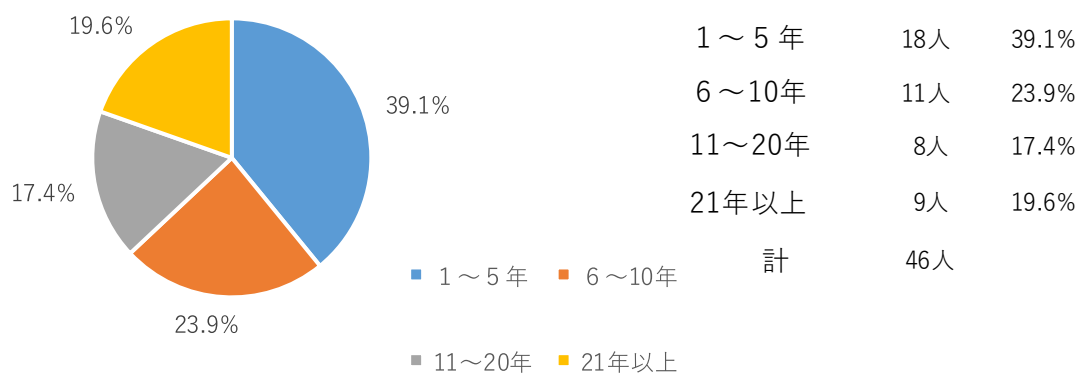
(2) スポーツ少年団指導者アンケート結果（令和5年11月実施）

町内のスポーツ少年団 23 団体の指導者を対象にアンケート調査を実施した結果、46 人から回答をいただきました。

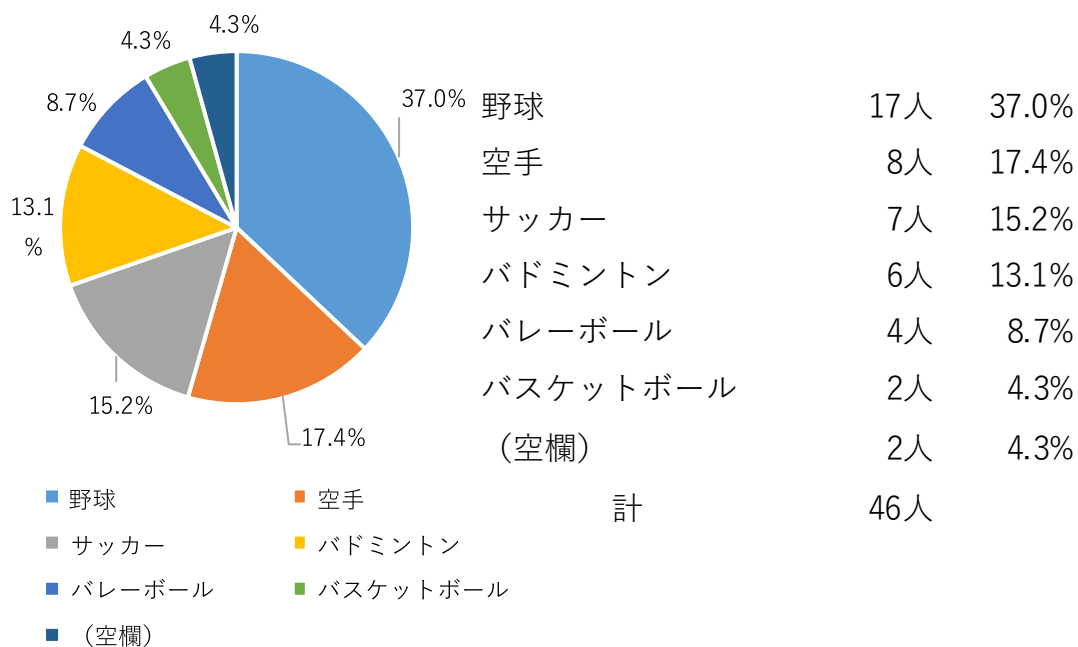
○回答した指導者の活動拠点の学校区



1. スポーツ少年団の指導に携わった年数

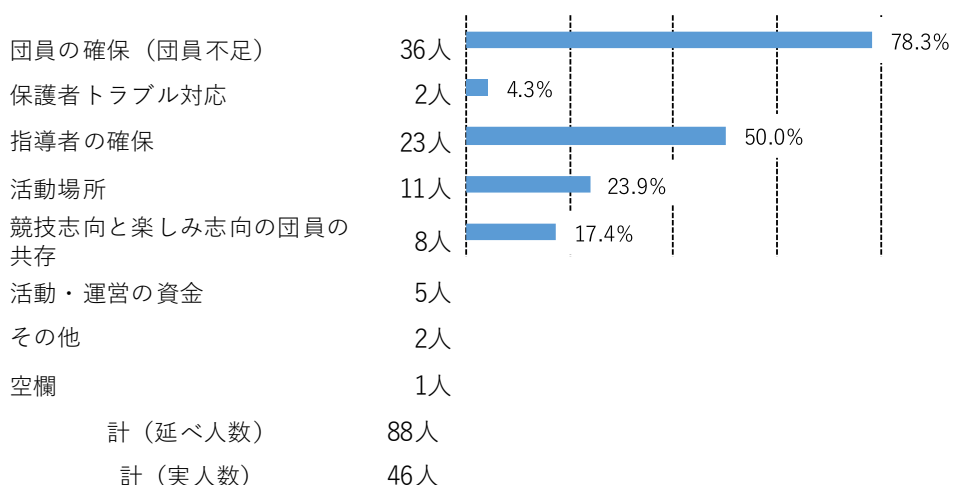


2. 現在指導しているスポーツの種目



上記の3つのグラフは、アンケートに回答した指導者の活動拠点の学校区、指導に携わった年数、指導種目を示しています。

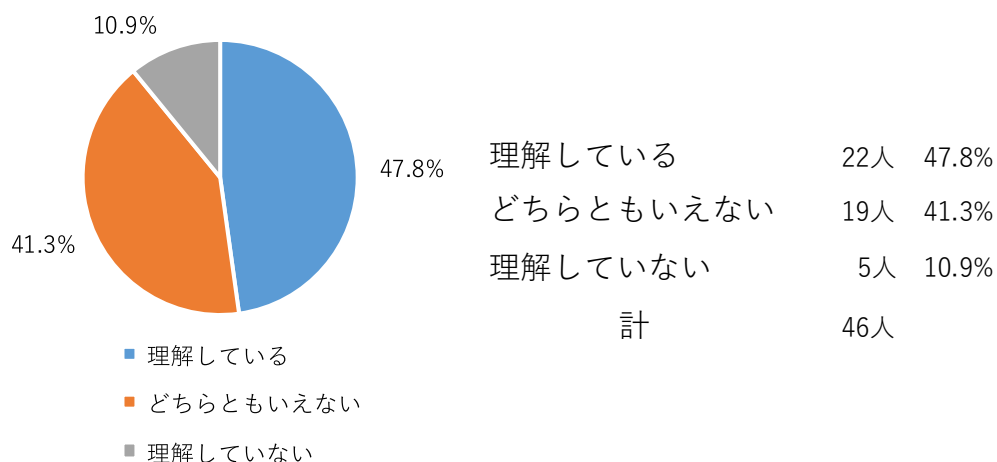
3. 現在、スポーツ少年団で指導するにあたり、どんな課題がありますか (複数選択可)



質問3のスポーツ少年団の指導の課題については、「団員の確保 (団員不足)」が78.3%と最も高く、次いで「指導者の確保」が50.0%となりました。このことから、多くの指導者にとって、団員の確保や団員不足、指導者不足等の人的資源の確保が課題と考えられます。

4. 学校部活動の地域移行について理解していますか

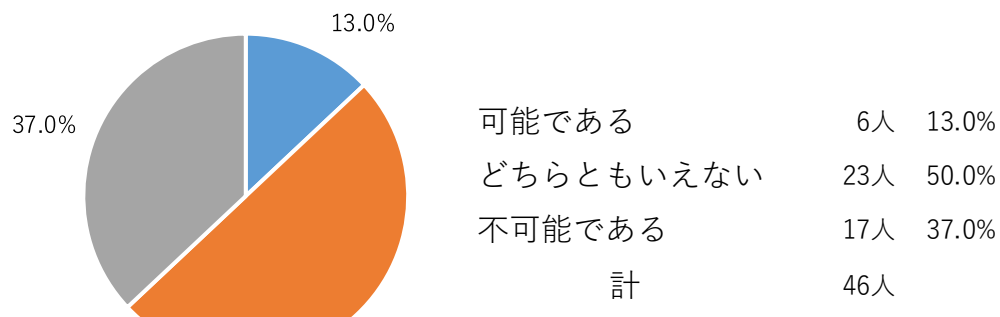
(総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等に、中学生の活動の主体を地域の団体へ移行すること)



質問4の学校部活動の地域移行への理解については、「理解している」が47.8%、「どちらともいえない」、「理解していない」が合わせて52.2%でした。

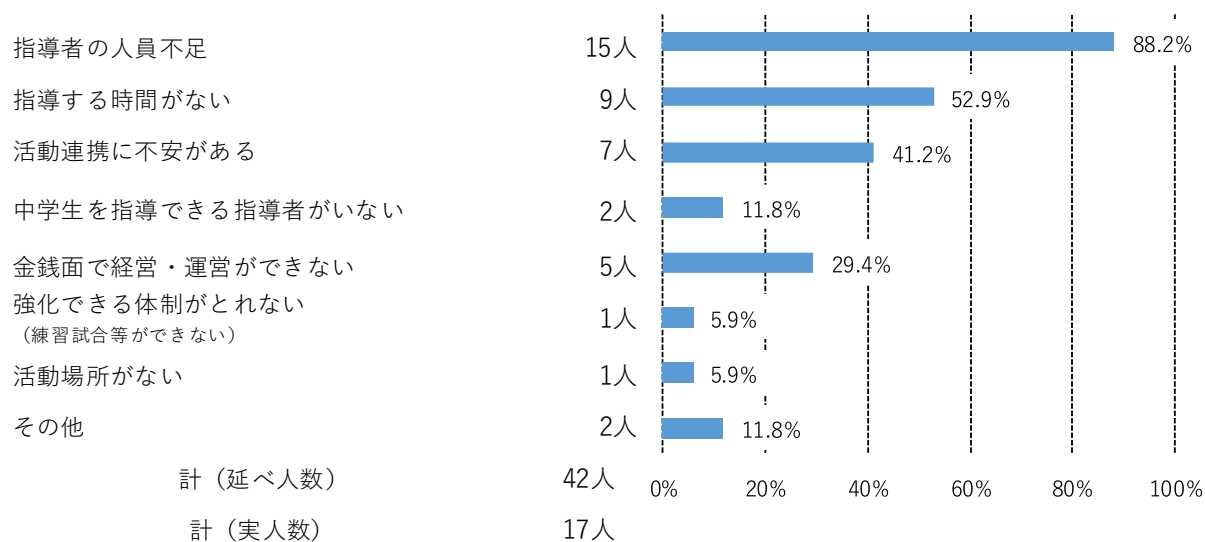
このことから、地域クラブへの移行について理解している指導者とそうでない指導者が、およそ半数ずついると考えられます。地域クラブへの移行について理解していただき、活動に協力をいただくため、指導者に説明を行う必要があります。

5. 休日の部活動が「地域移行」された場合、貴スポーツ少年団が生徒を受け入れて指導する体制・組織（受け皿）になることは可能ですか



質問5では現状、地域クラブとして受け入れが可能か回答をいただきました。この結果、「どちらともいえない」が50%、「不可能である」が37%で、約9割の団体が地域クラブへの移行の受け皿となる体制が整っていないと考えられます。

6. 生徒を受け入れる体制等が不可能である理由は何でしょうか（複数選択可）



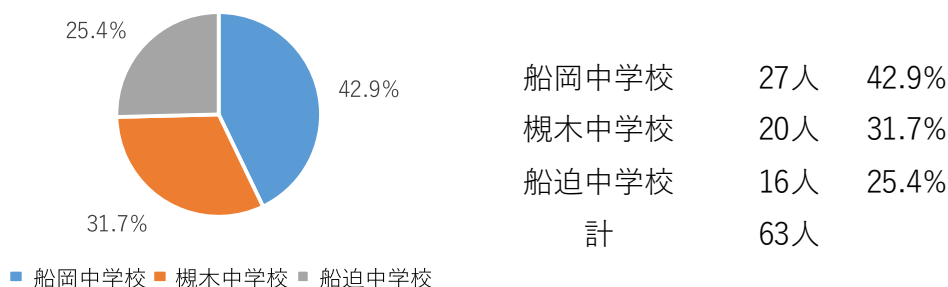
質問6では、質問5において「不可能である」と回答した17人に対し、受け入れが不可能と判断した理由について回答をいただきました。最も回答率が高かったのは「指導者の人員不足」の88.2%、次いで「指導する時間がない」の52.9%でした。

質問3においてスポーツ少年団活動で感じる課題として「指導者の確保」が50%と高かったことから、このような結果になったと考えられます。

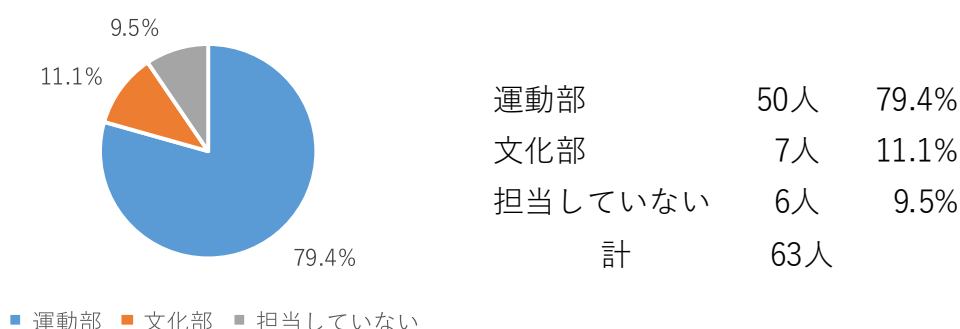
(3) 教員アンケート結果（令和5年11月実施）

町内の中学校3校の教員を対象にアンケート調査を実施した結果、63人から回答をいただきました。

1. 所属の学校

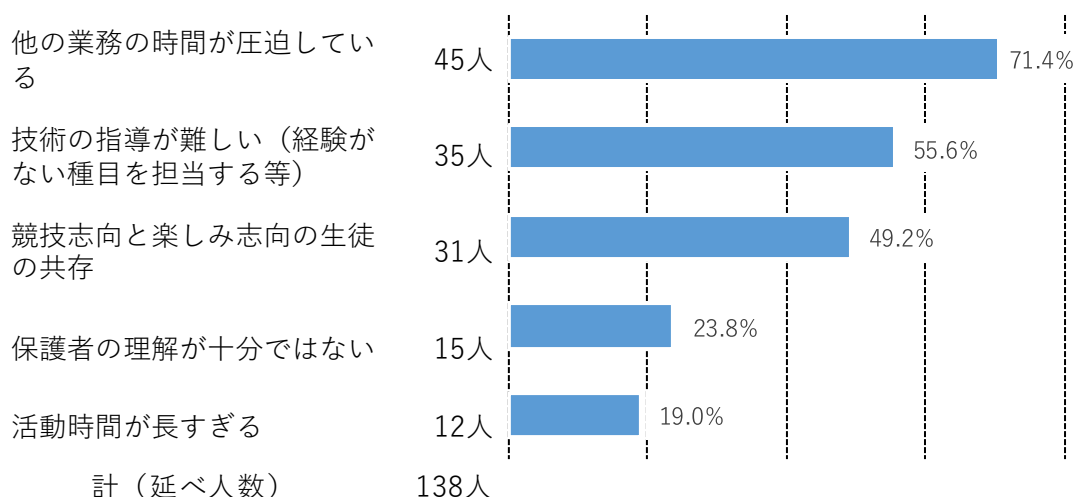


2. 現在、顧問（副顧問を含む）している部活動の種類（複数の場合は主とする部活動）



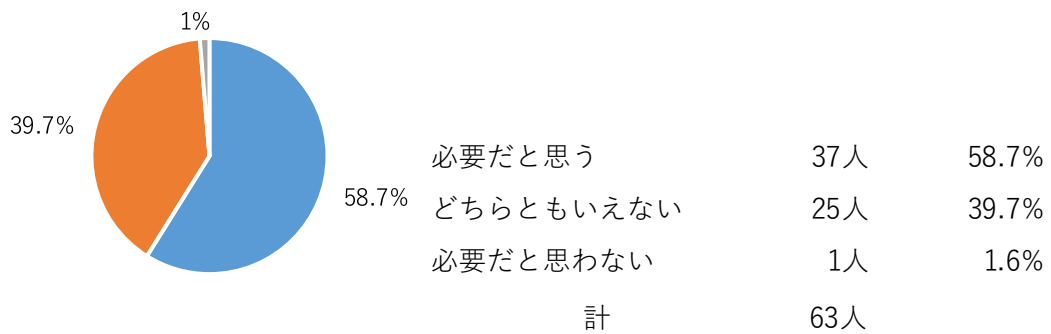
質問1、質問2は、アンケート調査に回答した教員の所属中学校、現在の顧問として携わっている部活動を示しています。

3. 現在、部活動を指導するにあたり、どんな課題がありますか（複数選択化）



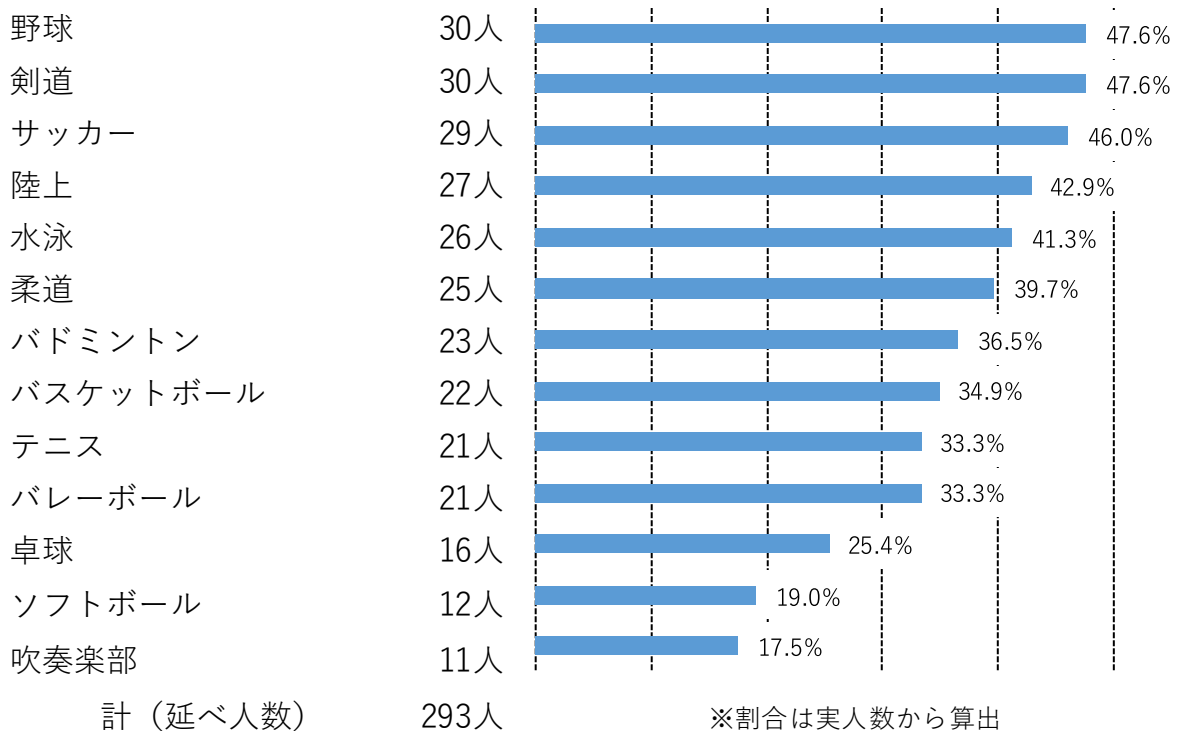
質問3の部活動の指導の課題については、「他の業務の時間が圧迫している」が71.4%と最も高く、次いで「技術の指導が難しい」が55.6%となりました。このことから、町内の教員においても、部活動が他の業務への圧迫や指導に負担を感じていることが考えられます。

4. 部活動指導員など外部の指導者は必要だと思いますか



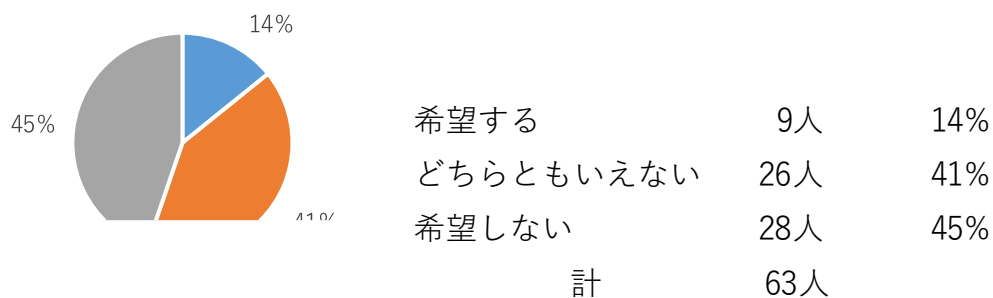
質問4の外部指導者の必要性については、「必要だと思う」が58.7%で最も高く、「必要だと思わない」が1.6%と最も低かったです。回答した半数以上の教員が、専門的に競技について理解をしている外部指導者の支援を必要としていると考えられます。

5. 休日の部活動が段階的に「地域移行」される場合、早期に移行可能と思われる種目はありますか



質問5の早期に地域への移行が可能と思われる種目については、「野球」と「剣道」が47.6%で最も高く、次いで「サッカー」が46.0%、「陸上」が42.9%と回答率が高かったです。文化芸術種目である「吹奏楽」が17.5%と最も回答率が低い結果となりました。

6. 休日の部活動が「地域移行」された場合、学校教員も指導に関わるための「兼職兼業」の許可を得て、指導することを希望しますか



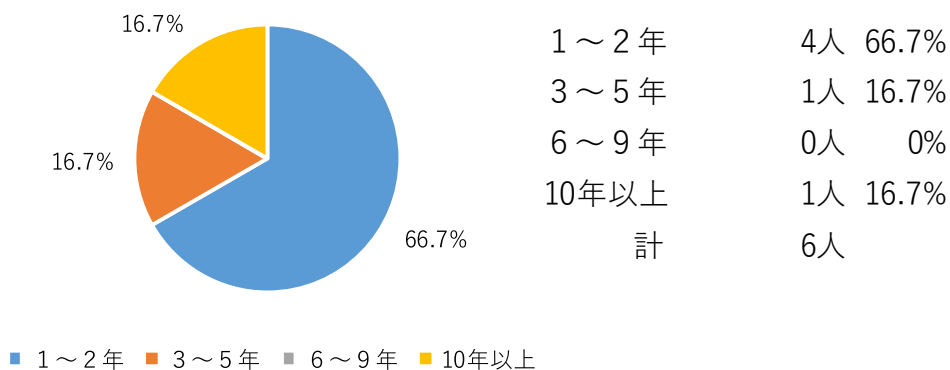
質問6の休日の部活動が地域移行された場合、兼職兼業を希望し、地域クラブでの指導を希望するかについては、「希望する」教員が14%、「どちらともいえない」が41%、「希望しない」が45%でした。

「希望しない」と回答した教員が最も多くなりましたが、「どちらともいえない」と回答した教員が次いで多く、今後の地域クラブへの移行についての説明によって、指導に関わる兼職兼業を希望する教員数に変化が生じると考えられます。

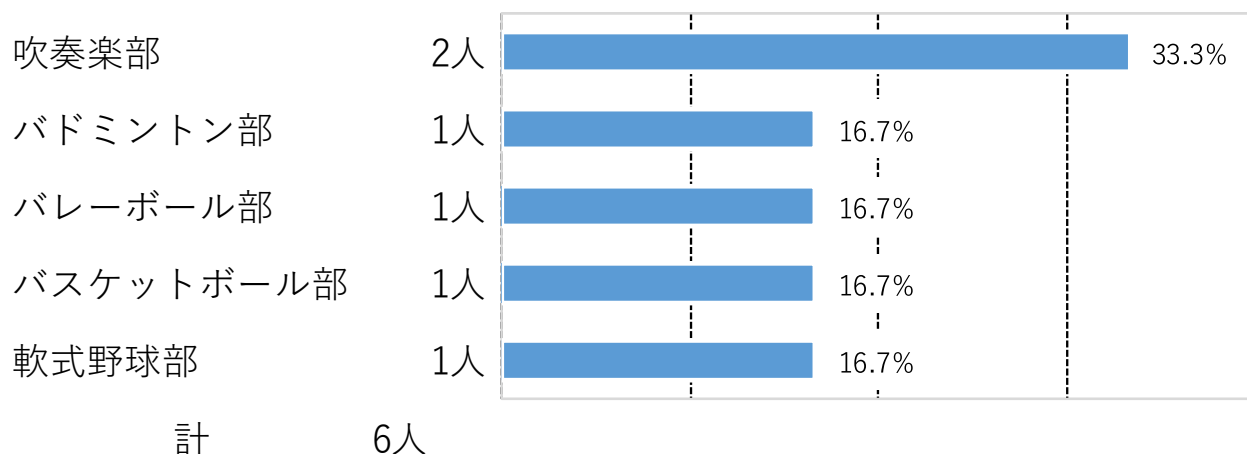
(4) 部活動指導員アンケート結果（令和5年11月実施）

町内の中学校3校の部活動指導員を対象にアンケート調査を実施した結果、6人から回答をいただきました。

1. 部活動指導員などで部活動の指導に携わった年数

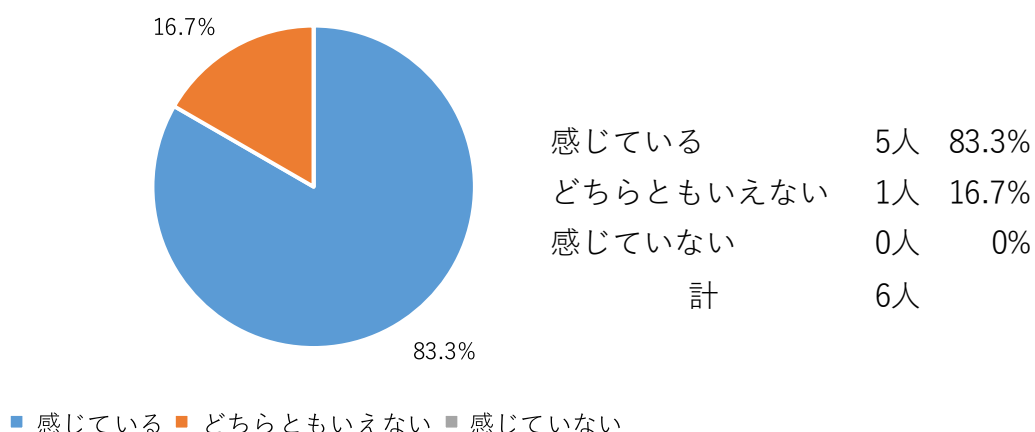


2. 現在、指導している部活動の種目



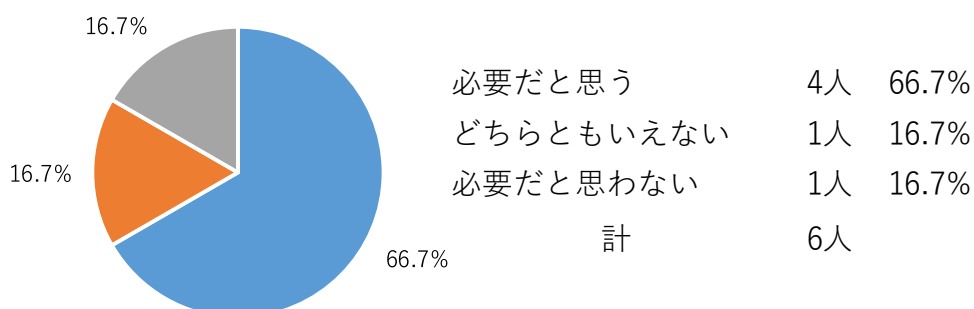
質問1、質問2は、アンケート調査に回答した部活動指導員6人の部活動の指導に携わった年数、現在の指導種目を示しています。

3. 部活動を指導することにやりがいを感じていますか



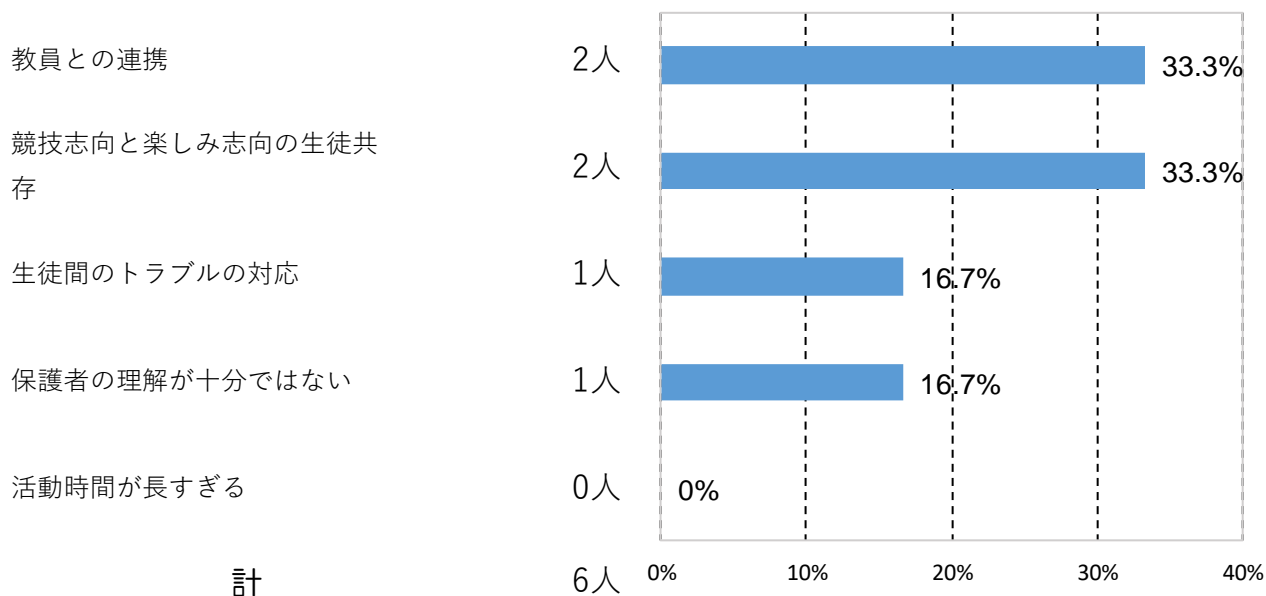
質問3の部活動を指導することにやりがいを感じているかについては、「感じている」が83.3%で最も高く、「感じていない」は0%でした。

4. 部活動指導員など外部の指導者は必要だと思いますか



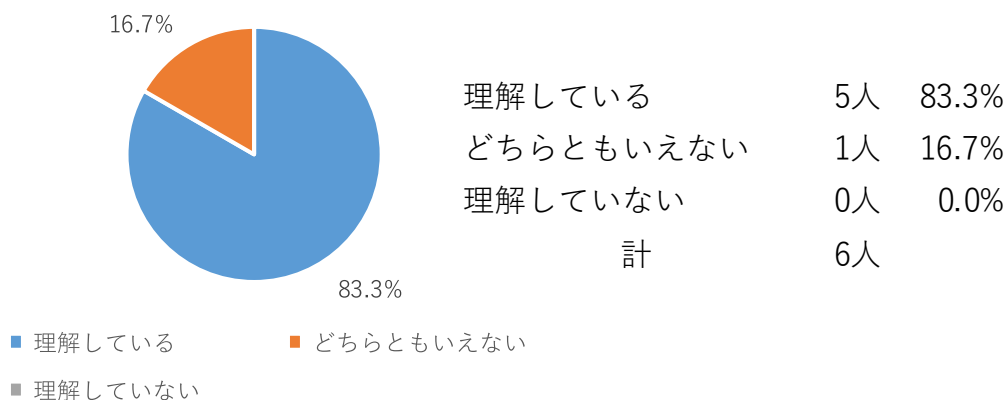
質問3の部活動に対し外部からの指導者は必要かについては、教員対象のアンケート結果と同様に、回答した半数以上の部活動指導員が、専門的に競技について理解している外部指導者の支援が、生徒や教員には必要であると感じていると考えられます。

5. 現在、部活動を指導するにあたりどんな課題がありますか



質問5の部活動の指導における課題については、「教員との連携」と「競技志向と楽しみ志向の生徒の共存」が33.3%で最も高くなりました。地域クラブへの移行においても同様に、平日の部活動の顧問との連携や、競技志向・楽しみ志向など生徒のニーズに合った地域クラブの提供が課題となると考えられます。

7. 学校部活動の地域移行について理解していますか



質問6の学校部活動の地域移行への理解については、「理解している」が88.3%と最も高くなりました。地域クラブに関わる人材の増加に向けて、今後も地域クラブへの移行にむけた取り組みについて情報発信を行い、関係者の理解を深めていく必要があります。

(5) 小学5・6年生対象アンケート結果（令和6年10月実施）

休日部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、町内の小学生の部活動への興味関心、地域クラブ活動に対する小学生のニーズを把握するため、アンケート調査を実施しました。アンケートの対象者、調査方法、結果は下記のとおりです。

1. アンケートの回答状況

船岡中学校区（船岡小学校、西住小学校、東船岡小学校）

		船岡小学校	西住小学校	東船岡小学校	合計（性別）	合計（学年）
6年生	女	33人	6人	22人	61人	114人
	男	22人	9人	22人	53人	
5年生	女	46人	8人	16人	70人	143人
	男	45人	6人	22人	73人	
回答合計		146人	29人	82人		257人
児童数		171人	35人	98人		304人
回答率		85.4%	82.9%	83.7%		84.5%

槻木中学校区（槻木小学校、柴田小学校）

		槻木小学校	柴田小学校	合計（性別）	合計（学年）
6年生	女	29人	2人	31人	81人
	男	43人	7人	50人	
5年生	女	34人	3人	37人	65人
	男	23人	5人	28人	
合計		129人	17人		146人
児童数		162人	18人		180人
回答率		79.6%	94.4%		81.1%

船迫中学校区（船迫小学校）

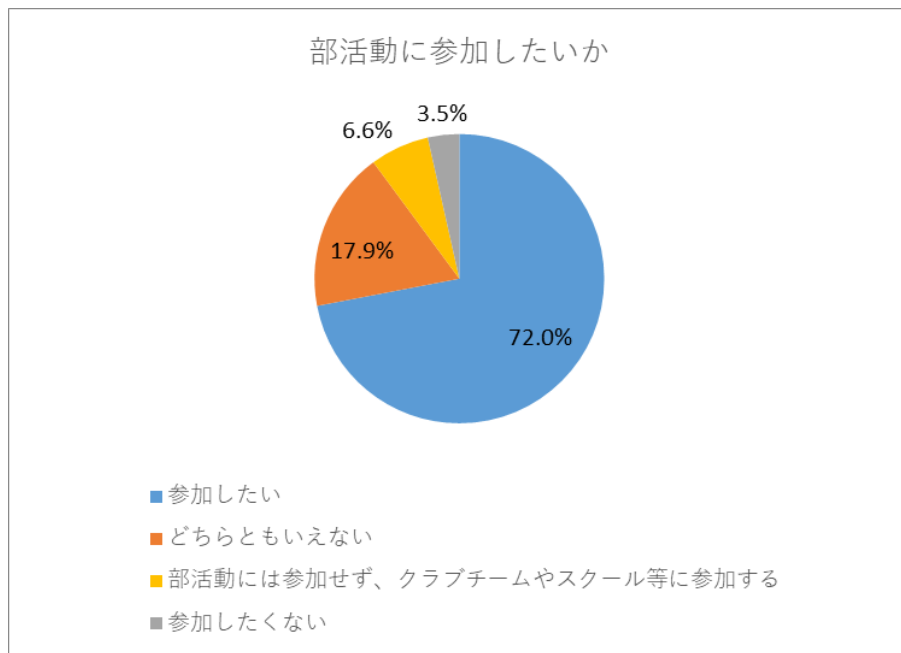
		船迫小学校	合計（性別）	合計（学年）
6年生	女	20人	20人	44人
	男	24人	24人	
5年生	女	45人	45人	75人
	男	30人	30人	
合計		119人		119人
児童数		121人		121人
回答率		98.3%		98.3%

2. 部活動に参加したいか

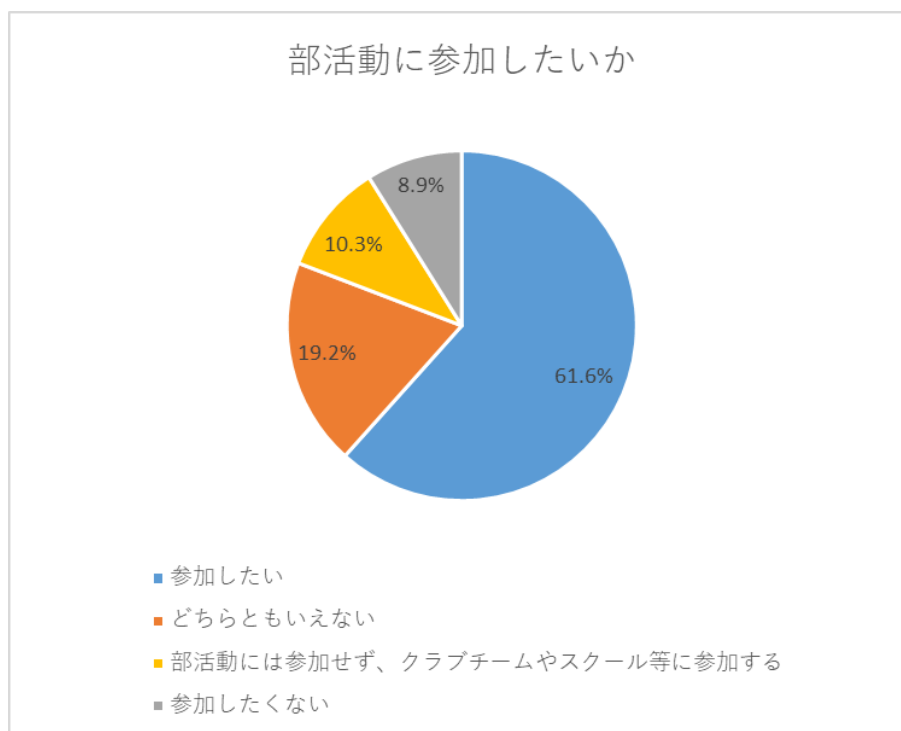
次に部活動への参加希望について調査を行い、部活動への関心を調査しました。

全ての学校区において、およそ 60%から 70%の児童が中学校での部活動へ「参加したい」と回答しました。「どちらともいえない」と回答した児童の割合については、3 学校区で 20%程度となりました。

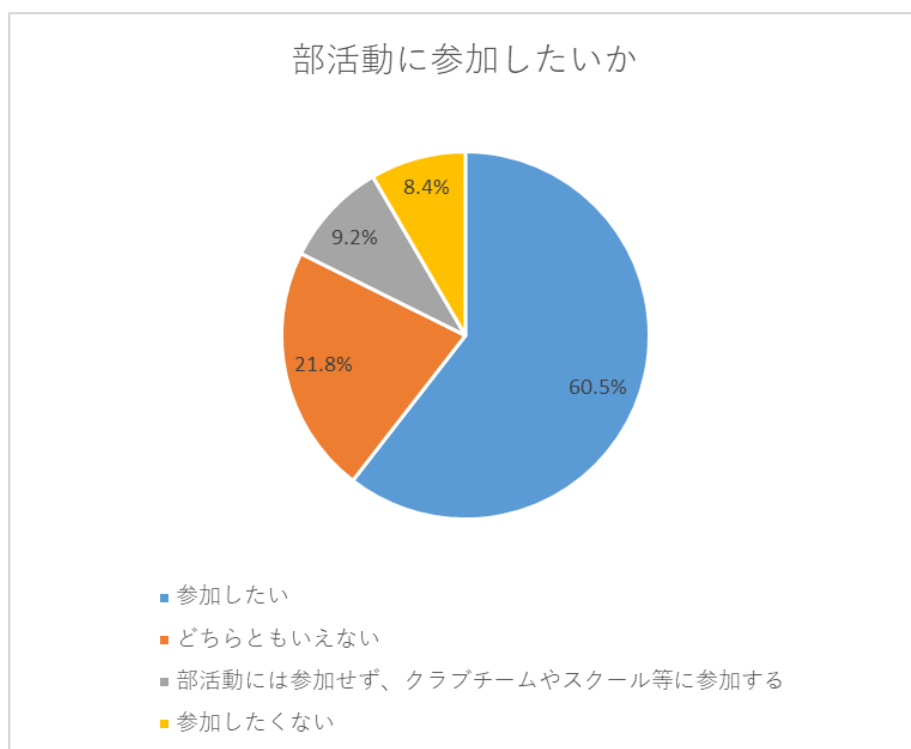
【船岡中学校区】



【槻木中学校区】



【船迫中学校区】



3. それぞれの進学予定の中学校の部活動で取り組んでみたい種目

各中学校区の進学予定の中学校で実施している部活動の中から、それぞれ取り組んでみたい種目について回答をいただきました。（複数選択可）

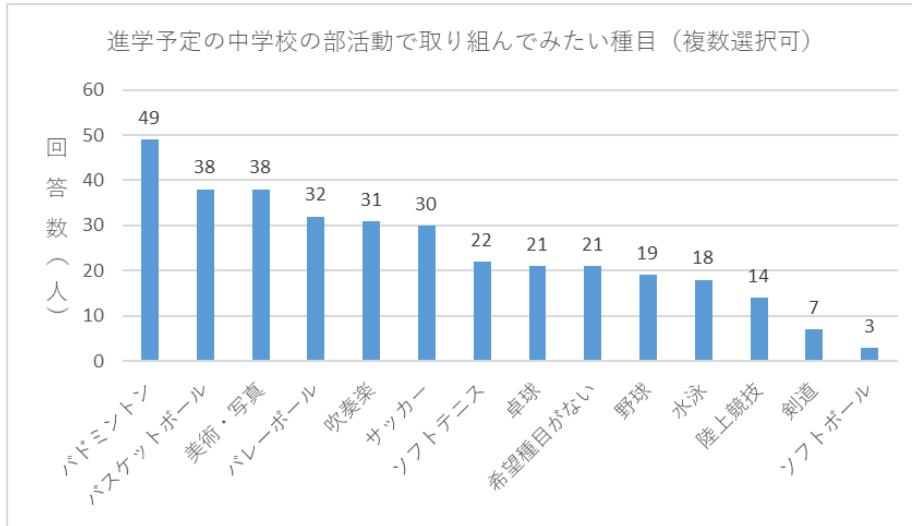
船岡中学校区においては、「バドミントン」、「バスケットボール」、「美術・写真」の回答が多くありました。

槻木中学校区においては、「バドミントン」、「希望種目が無い」、「野球」の回答が多くありました。

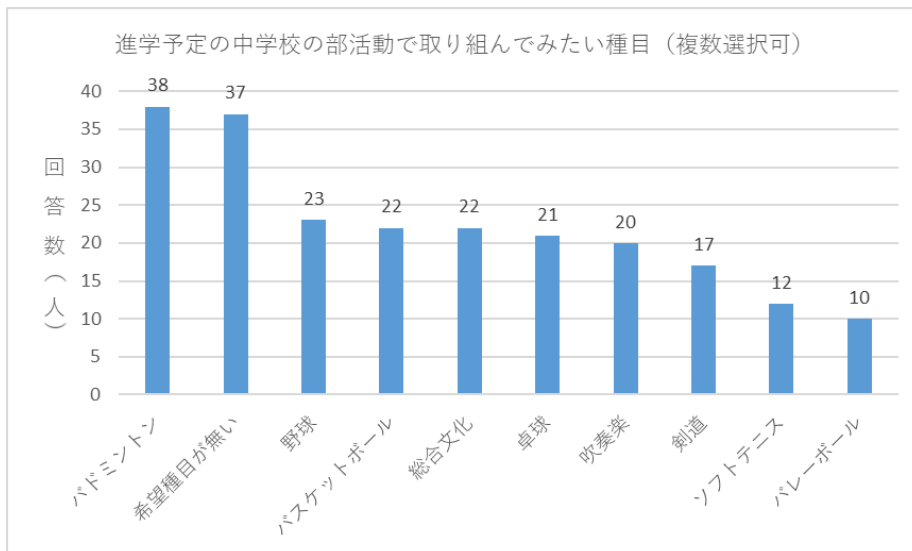
船迫中学校区においては、「希望種目が無い」、「バドミントン」、「吹奏楽」の回答が多くありました。

どの中学校区においても「バドミントン」が取り組んでみたい種目として多く挙げられていました。一方、「希望種目が無い」の回答が、槻木中学校区、船迫中学校区においては、上位にありました。

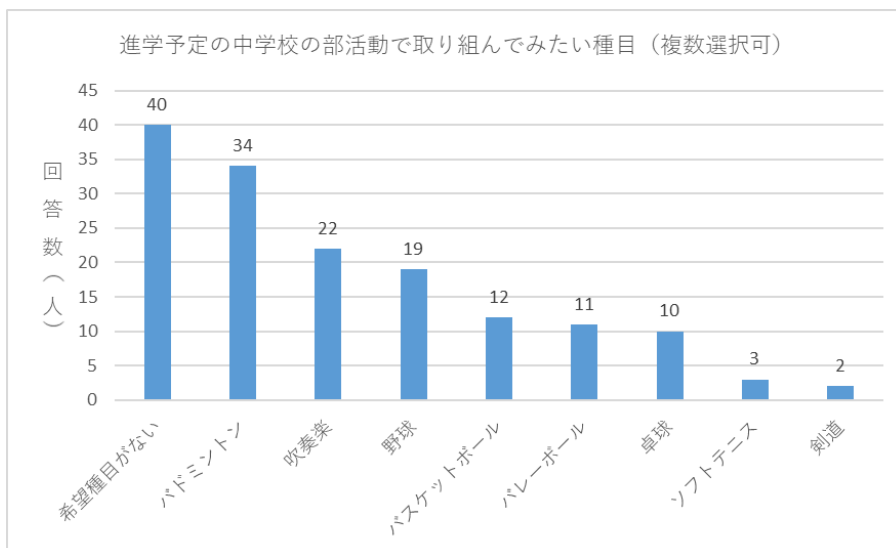
【船岡中学校区】



【槻木中学校区】



【船迫中学校区】

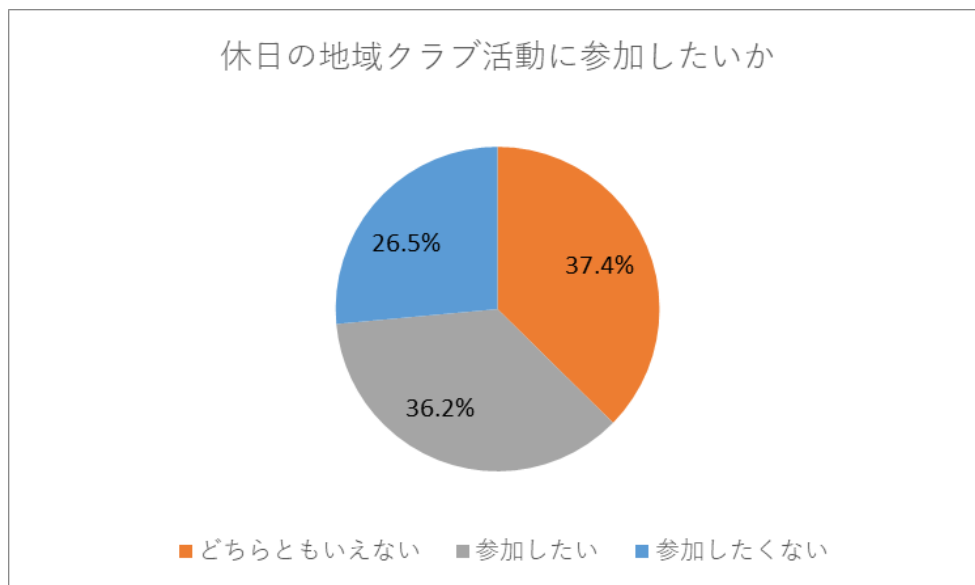


4. 休日の地域クラブ活動に参加したいか

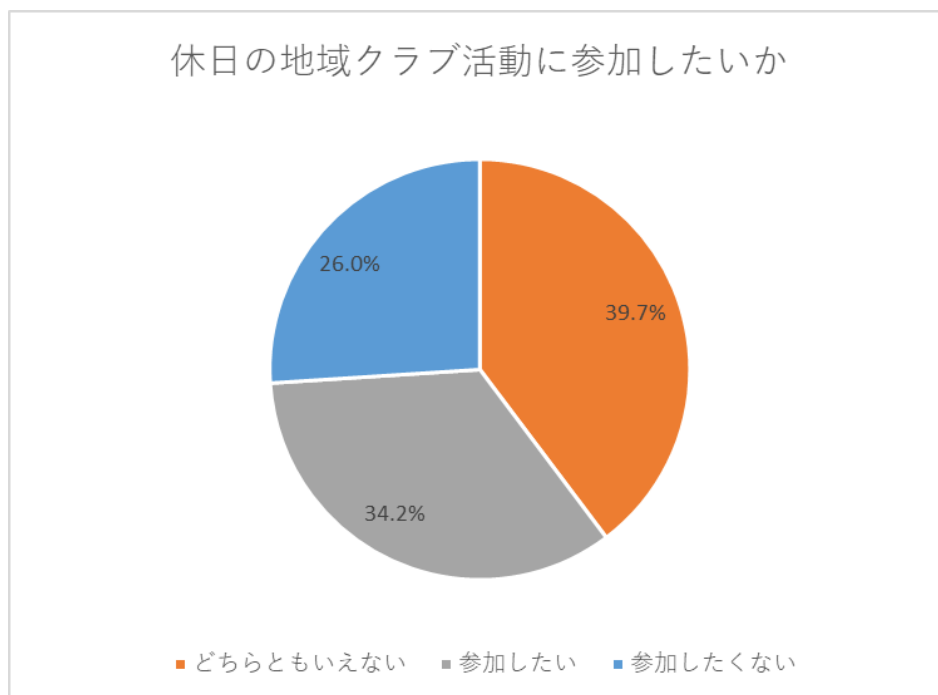
船岡中学校と槻木中学校の学校区においては、「どちらともいえない」の回答率が最も高く、次いで、「参加したい」、「参加したくない」となっています。船迫中学校区では「参加したくない」の回答率が最も高くなりました。

地域クラブでの具体的な取り組みが分からないため、判断が難しく、児童たちの回答で「どちらともいえない」や「参加したくない」といった回答が多くなったと考えられます。

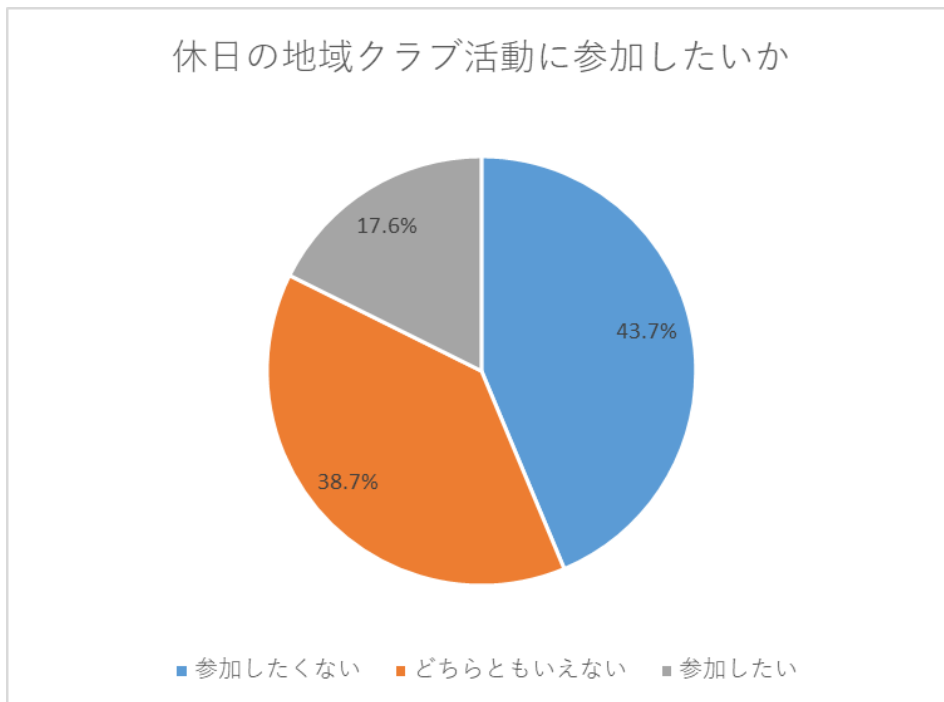
【船岡中学校区】



【槻木中学校区】



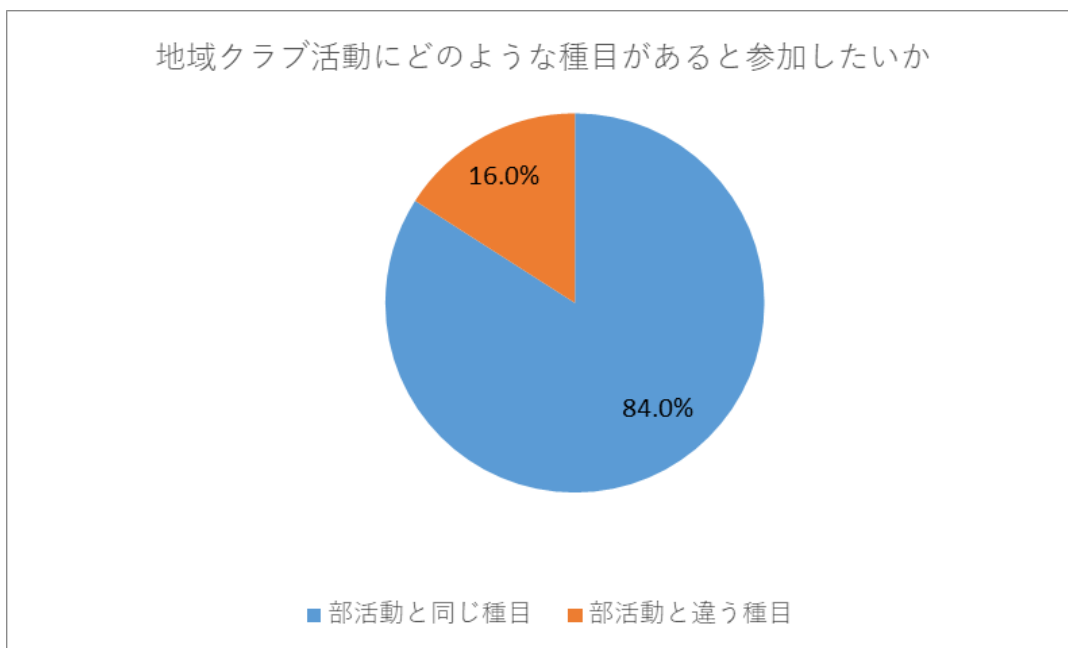
【船迫中学校区】



5. 地域クラブ活動にどのような種目があると参加したいか

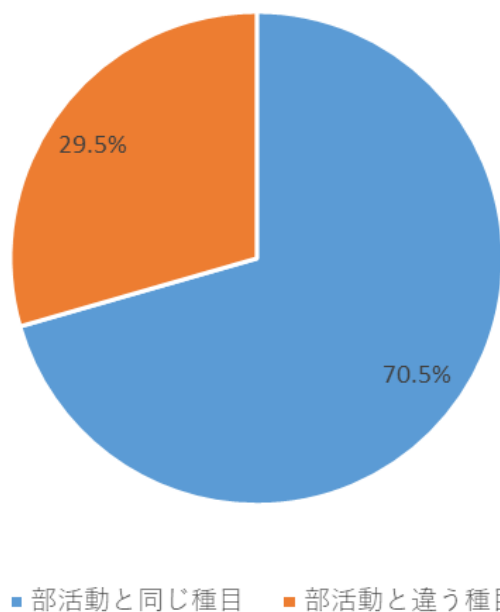
全ての学校区において、「部活動と同じ種目」の回答率が最も高くなりました。部活動と違う種目への回答が少ない要因として、質問4と同様に、地域クラブの具体的なイメージが出来ていないことが考えられます。

【船岡中学校区】



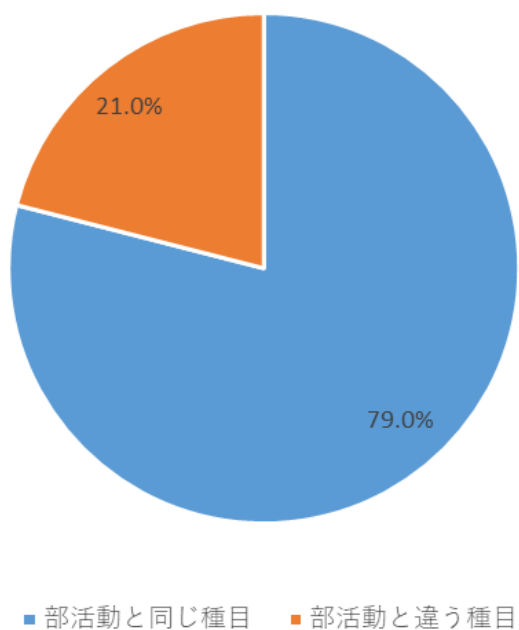
【槻木中学校区】

地域クラブ活動にどのような種目があると参加したいか



【船迫中学校区】

地域クラブ活動にどのような種目があると参加したいか



6. 部活動には無い種目で取り組んでみたい種目

下記の表は3つの学校区において回答内容をまとめたものになります。進学予定の中学校には無いが、他地区の中学校部活動では実施されている種目が挙げられている一方で、スポーツ、文化分野どちらも、既存部活動には無い種目である「空手」や「茶道」の回答が最も多くなりました。

○町内の小学生（5年生、6年生）の地域クラブ活動を実施した際の新規種目の希望について(複数選択可) (単位：人)

分類	No.	種目名	回答数（学区ごと）			合計
			船岡	槻木	船迫	
スポーツ	1	空手	34	24	3	61
	2	ダンス	10	5	5	20
	3	サッカー	1	12	6	19
	4	陸上		7	6	13
	5	弓道	2	10		12
	6	水泳		6	5	11
	7	バドミントン	4	1	1	6
	8	体操（マット運動含む）	4		1	5
	9	ハンドボール	4			4
	10	ドッジボール	1	2		3
	11	バスケットボール	2	1		3
	12	チアダンス			3	3
	13	合気道	2			2
	14	相撲		2		2
	15	野球		1	1	2
	16	ショートテニス	1			1
	17	ボクシング	1			1
	18	少林寺	1			1
	19	硬式テニス	1			1
	20	体育	1			1
	21	ボウリング		1		1
	22	バトン			1	1
	23	バレーボール			1	1
	24	筋トレ			1	1
	25	セーリング		1		1
	26	クリケット	1			1
合計			70	73	34	177

分類	No.	種目名	回答数（学区ごと）			合計
			船岡	槻木	船迫	
文化	1	茶道	50	22	16	88
	2	書道	35	9	4	48
	3	太鼓	22	5	5	32
	4	パソコン	4		3	7
	5	美術		3	4	7
	6	eスポーツ（ゲーム含む）	4	2	1	7
	7	科学	2	3	1	6
	8	料理	1	4		5
	9	工作	1	1	2	4
	10	イラスト		1	3	4
	11	そろばん		3		3
	12	写真	1		1	2
	13	生物研究（動物関係含む）	1	1		2
	14	アニメ		2		2
	15	タイピング	1			1
	16	ボードゲーム	1			1
	17	応援団	1			1
	18	華道	1			1
	19	吹奏楽	1			1
	20	将棋	1			1
	21	水彩画	1			1
	22	農業		1		1
	23	ミニ四駆		1		1
	24	放送		1		1
	25	演劇			1	1
合計			128	59	41	228

7. どのような活動ができると参加したくなるか

地域クラブ活動において、どのような目的で活動ができれば参加をしたくなるか回答をいただきました。

令和4年の中学生、保護者を対象としたアンケートにおいては、体力や技術の向上、友達と楽しく活動するといった内容の回答が多くなっていましたが、小学5年生、6年生を対象とした今回のアンケートにおいても、上位の3つは自身の体力や技術の向上を目的とした内容と、「みんなで楽しく活動ができる」が多く回答されました。

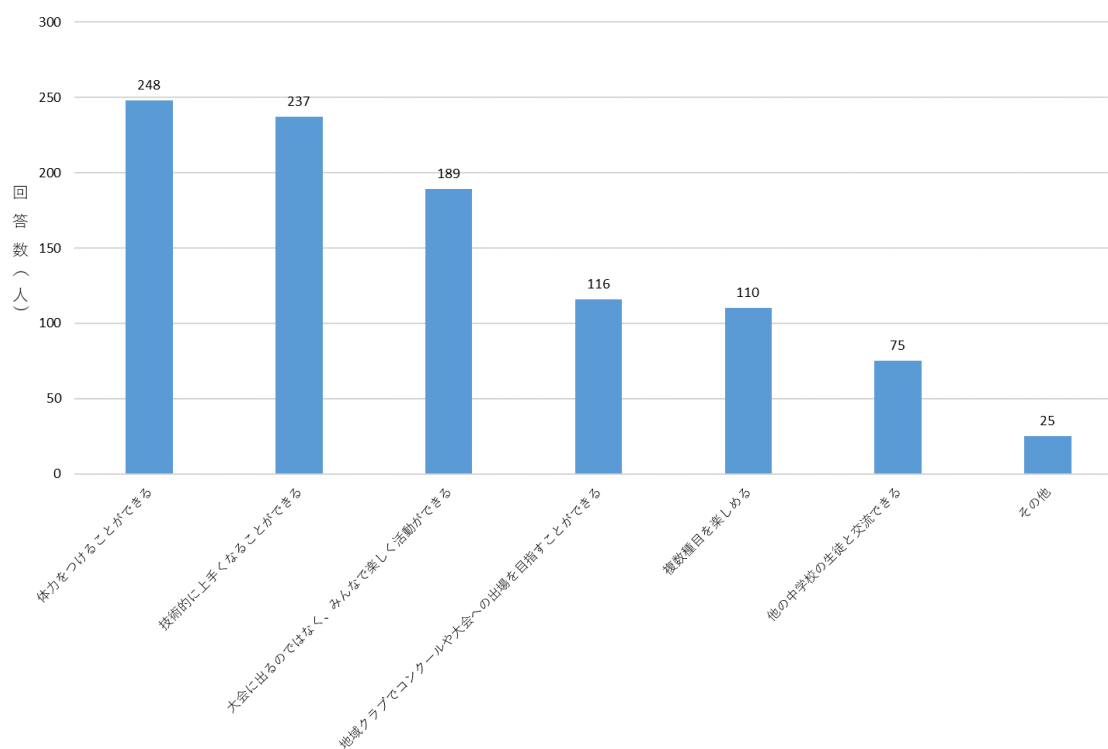
○各項目に対する回答状況

項目	合計
体力をつけることができる	248人
技術的に上手になることができる	237人
大会に出るのではなく、みんなで楽しく活動ができる	189人
地域クラブでコンクールや大会への出場を目指すことができる	116人
複数種目を楽しめる	110人
他の中学校の生徒と交流できる	75人
その他	25人

○その他について主な回答

ゆっくりとやりたい
友達を作りたい
できることが増え、趣味が見つかる、楽しめる。そして自慢できることも増える
上下関係が無い
強制参加じゃない部活があったら参加したいなと思います。
野球を楽しみたい
全国大会を目指して勝利の喜びを味わえる。
護身術を習いたい
やってみたいから
大会に出たい
部活動と地域クラブ活動の意味がいまいちよくわからない。何の為の部活で何の為の地域クラブ活動なのか。休みの日まで強制的にやりたくない
Scratchなどでのプログラミング

どのような活動ができると参加したくなるか（複数回答可）



4 令和5年度柴田町学校部活動地域移行検討協議会からの助言

町内中学校長や保護者代表を含む有識者 10 人で構成する柴田町学校部活動地域移行検討協議会を令和5年度は全3回開催し、地域クラブへの移行に向けての課題等を抽出し、課題対応策として柴田町教育委員会へ助言をいただきました。

下記の5つの観点から助言がありました。

1 運営や実施団体の整備

- ① 中学校部活動の地域移行について将来的な持続可能性を考慮し、廃部も含めた部活動の競技・種目の整理、町内の3中学校の合同部活動や近隣市町との連携等あらゆる可能性について検討すること。
- ② 部活動の実施競技・種目の整理について検討するにあたっては、地域の文化・スポーツ団体と十分に情報交換を図ること。
- ③ 休日の活動の運営主体は、町教育委員会において行うことが望ましい。
- ④ 運営団体の中で実際に各競技・種目の活動（地域の文化・スポーツ活動）を実施する団体については、地域スポーツ団体（スポーツ少年団、地域文化団体等）及び民間事業者へ委託等が考えられる。
- ⑤ 生徒のニーズが多様化していることを踏まえ、一人が複数のスポーツや文化活動を行える（マルチスポーツ等）仕組みについても検討すること。

2 指導者の確保と質の保障

- ① 指導者を確保するため、町教育委員会は必要な指導者数の把握、指導者が活動する際の条件整備、関係団体等への協力要請を行うこと。
- ② 指導者の資質向上を図るため、町教育委員会は各スポーツ・文化団体や大学等との連携を図ること。
- ③ 休日の中学生の活動と指導者の良好なマッチングを図るため、県の「みやぎ地域クラブ活動指導者人材バンク」の活用や町独自の人材バンク設置について検討すること。

3 大会・コンクールの見直し

- ① 中体連や吹奏楽連盟等が主催する大会について、クラブチーム等の参加資格に係る情報の収集に努めること。

4 費用負担の在り方

- ① 地域クラブ活動の運営費用は、原則として、受益者負担とするのが望ましい。
- ② 休日の部活動が地域クラブ活動へ完全移行されるまでは、公平性を保つために受益者負担が軽減されることが望ましい。
- ③ 町教育委員会は、地域クラブ活動の運営が持続可能に行われるよう、委託料や謝礼など必要経費をシミュレーションし、受益者負担や公費の在り方並びに減免等の措置について検討するとともに、町としての財源確保に努めること。

5 その他

- ① 町教育委員会は、中学校部活動の地域移行に関する生徒や保護者の理解が深まるよう丁寧な対応を行うことや、目標年度、推進計画等の進捗状況を「部活動改革だより」で町民に周知すること。

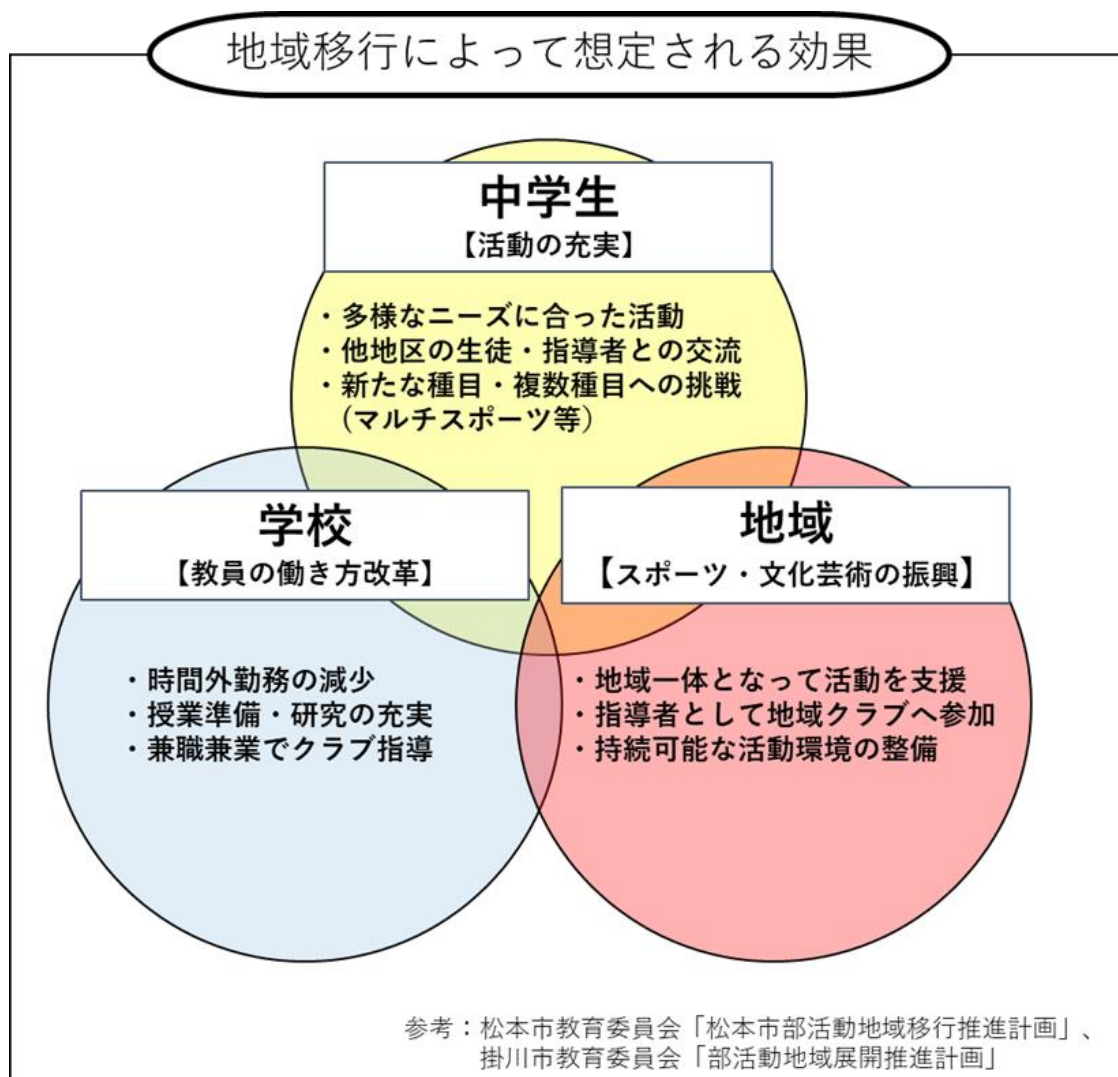
5 休日部活動の地域移行の基本方針

(1) 地域クラブへの移行について

地域クラブへの移行は、生徒数の減少や生徒のニーズの多様化、教員の働き方改革といった課題の解決に向けて取り組みます。多様なニーズに応えることができるよう、地域一体となって環境整備を行い、これまで部活動で行われてきたスポーツ・文化芸術活動の機会の確保や既存の部活動には無い、新たな種目に出会える場の確保を目指します。また、地域のスポーツ・文化芸術活動の振興に向け、スポーツ及び文化芸術活動を「する」「みる」「ささえる」といったさまざまな立場に関わり、子ども、地域住民、兼職兼業教員等が集い、交流ができる拠点を目指します。

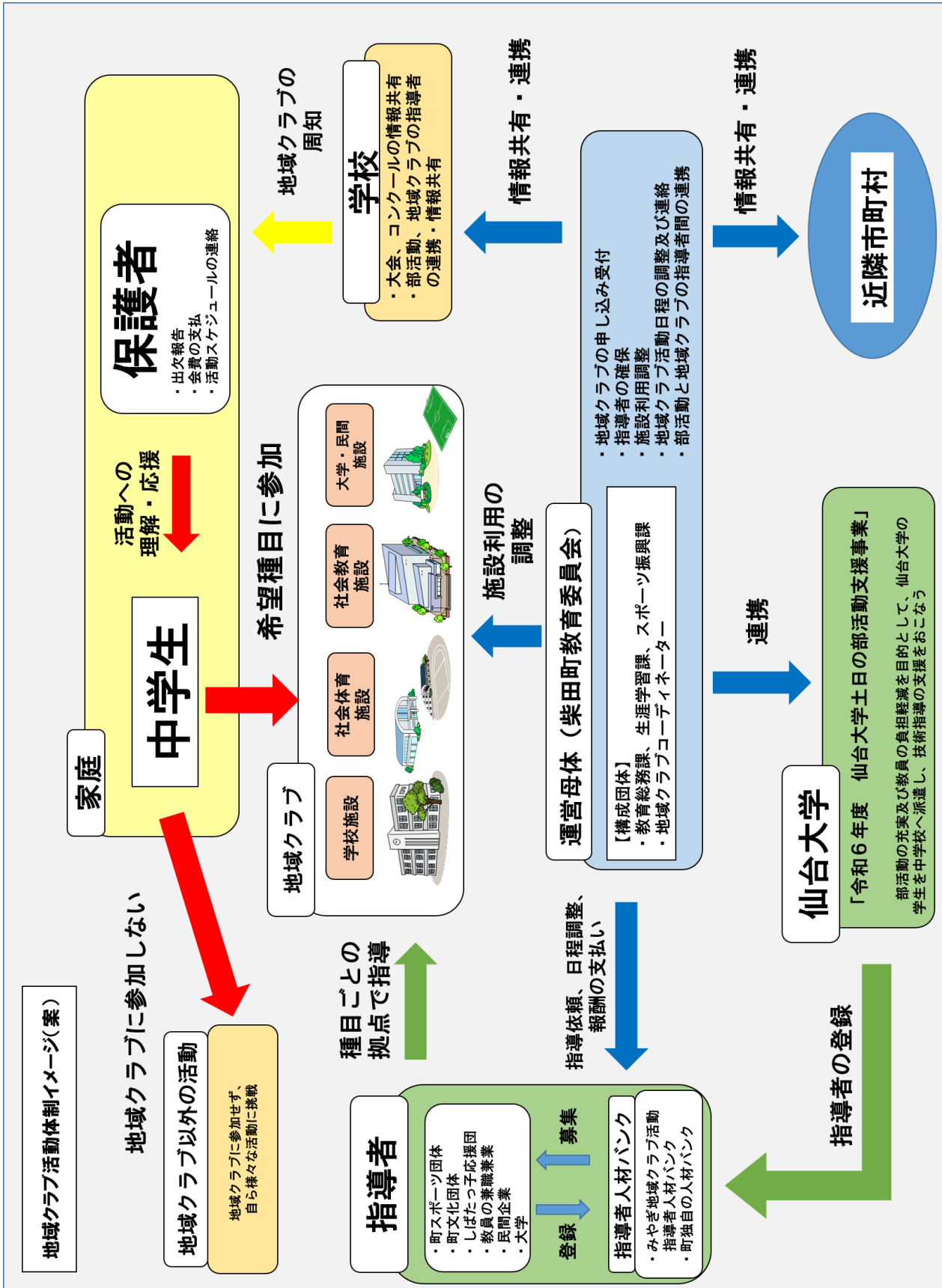
さらに、地域クラブ活動へ参加を希望する子どもが、気軽に参加できるよう費用負担額の設定など環境整備を行い、そして関係者が地域クラブについて十分な理解ができるよう情報共有を行います。

柴田町では、子どもたちが活動種目を自由に選択し、スポーツ・文化芸術活動を継続的に親しむことができる地域クラブの運営を行い、地域クラブでの様々な経験を通して、新たな機会、価値観を得るきっかけづくりができる地域クラブの活動体制の整備に取り組みます。



(2) 地域クラブの活動体制

下記の図は、生徒、指導者運営母体となる柴田町教育委員会といった、地域の関係団体の想定される活動体制を示したものです。



(3) 今後のスケジュール

令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
活動体制の構築	▶▶▶ 段階的な地域移行		▶▶▶	休日部活動の完全移行
R4~ 部活動調整会議	教育委員会内による会議、国・県・町の方針について情報共有、活動実態・課題の把握			
R5~ 学校部活動地域移行検討協議会	地域クラブの課題や改善点について検討し、教育委員会へ助言を行う			
R6.12 「柴田町休日部活動地域移行推進計画」策定	休日の学校部活動を計画的に進めていくため、「柴田町休日部活動地域移行推進計画」を策定する			
R7.1~R7.3 生徒・保護者説明会	地域クラブの活動体制等についての説明会を開催する			
R6.6~R7.2 仙台大学土日の部活動支援事業	町内中学校と仙台大学が連携して、部活動の充実と教員の負担軽減のため、顧問教諭の技術指導の支援を行う			
R7.4~ 地域クラブの実施	指導者・運営主体等の体制整備ができた地域クラブから活動開始 既存の部活動に囚われない新規種目の検討を行う 令和 10 年度に、休日の部活動を地域クラブへ完全移行することを目標に取り組む			

令和 6 年度は、休日の部活動の地域クラブへの移行を計画的に進めていくため「柴田町休日部活動地域移行推進計画」を策定し、継続的な活動の実現に向けて体制整備を行い、準備が整った種目から地域クラブに移行します。また、既存の部活動の地域クラブへの移行の検討に加え、これまでの部活動には無かった新規種目の検討を行います。

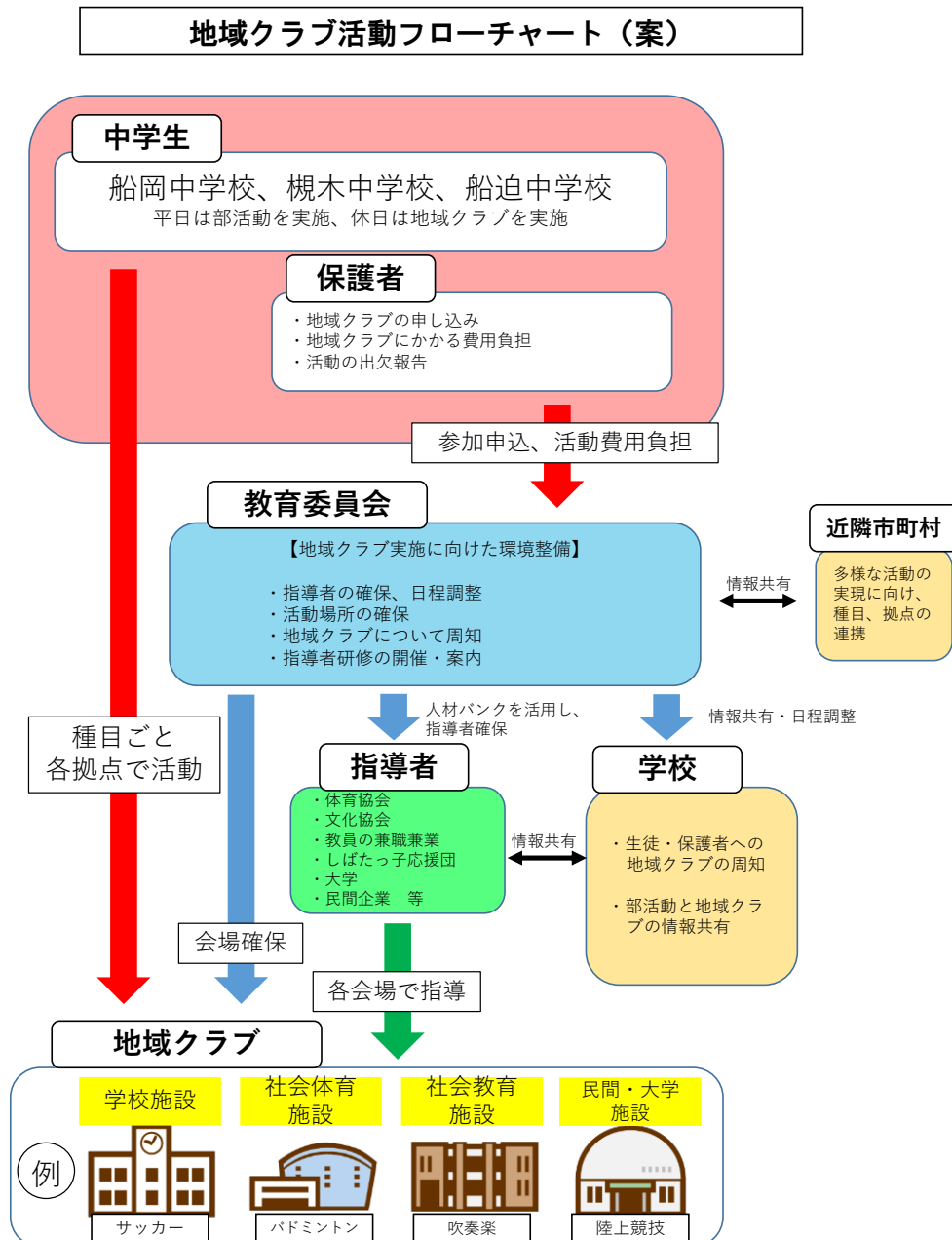
(4) 地域クラブの実現に向けた4つのポイント

令和5年度柴田町学校部活動地域移行検討協議会からの助言に基づき4つのポイントに着目して、休日の部活動の地域クラブへの移行を進めていきます。

ポイント1 運営や実施団体の整備

技能の向上や大会での活躍を目的とした活動だけでなく、スポーツ及び文化芸術活動を楽しむことを目的とした活動ができる環境を整備します。また、生徒の多様なニーズに応えること、一人が複数のスポーツや文化活動に取り組めること、新たな種目に挑戦できることを考慮しながら、地域の資源を活用した体制整備に努めます。

下記の図のとおり、地域クラブの運営母体は教育委員会とし、実施主体は体育協会（スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ含む）、文化協会、民間事業者等、様々な団体を想定し、地域の実情に合った継続的な運営を行います。



ポイント2 指導者の確保と質の保障

指導者の確保の為、地域の人的資源を把握し、地域の指導者が子どもたちに指導ができる環境整備を行います。

子どもたちのニーズに応え、幅広い分野の人材を確保するため、県の「みやぎ地域クラブ活動指導者人材バンク」の活用や町独自の人材バンク設置について検討します。

指導者の知識・技能向上、生徒の安全確保、ハラスメント等の防止のため、研修の実施、国・県が主催する研修会への参加を呼び掛けます。

国が示している「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」を受けた公立学校の教師等の兼職兼業の取扱い等について」を参照し、地域クラブの指導を希望する教員が兼職兼業を行うことができるよう必要な手続きの整備を行います。

ポイント3 大会・コンクールについて

大会・コンクールについては、中学校体育連盟や各競技団体等が定める参加基準に準じ、平日の部活動との兼ね合いを考慮しながら、地域クラブでの大会等への参加方法等、情報を収集し、関係団体に周知を行います。

地域クラブと平日の部活動で参加する大会について情報共有を行うとともに、参加する大会の精査をし、生徒や指導者への周知を行います。

ポイント4 費用負担の在り方

これまでの学校教育活動から地域クラブへ移行することで発生する費用（保険や会費等）については、受益者負担を原則としつつ、持続可能な地域クラブの運営ができるよう検討を行います。

活動中の事故や怪我が生じた際の補償が受けられるよう保険への加入、施設利用料、指導者謝金など運営に必要な経費について、保護者から理解を得るために説明を行い、低廉な会費の設定に努めます。

経済的に困窮する家庭の生徒の地域クラブへの参加費用については、支援などを検討し、誰もが、気軽に参加できるような体制を整備します。

6 地域クラブの実施方法及び実施種目について

(1) 実施方法について

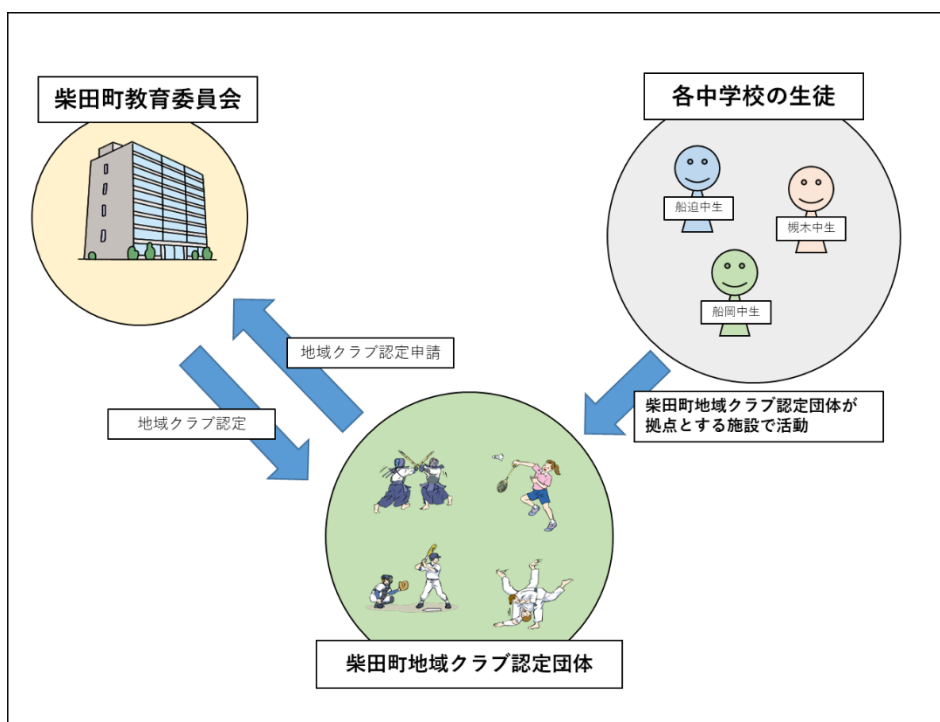
令和7年度から、準備の整った段階で地域クラブへの移行を行っていきます。また、既存部活動の地域クラブへの移行を準備の整った種目から行い、柴田町では令和10年度に、休日の部活動を地域クラブへ完全移行することを目指します。

また、生徒のニーズに合った新たな種目への挑戦のきっかけづくりの場として、既存部活動には無い新規種目の体験会を開催していきます。

実施方法については、次の3つの方法を基に実施します。

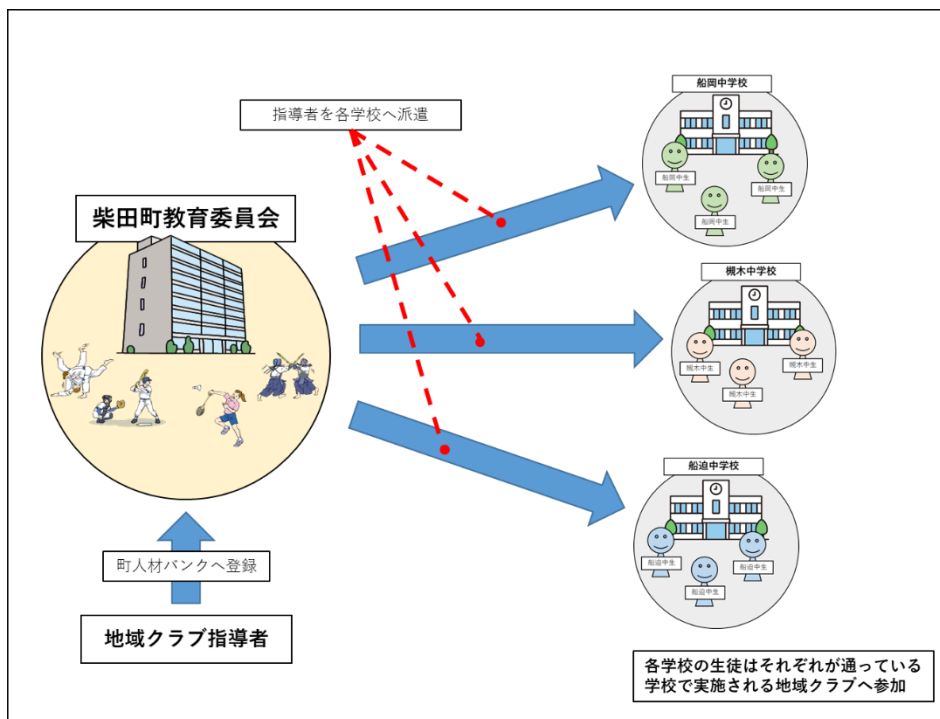
① 【地域クラブ認定団体活動】 認定団体が拠点とする施設で活動

地域クラブ移行への取り組みとして、教育委員会が地域のスポーツ及び文化芸術団体を「柴田町地域クラブ認定団体」として認定し、各中学校の生徒は、認定団体が拠点とする施設で活動する方法です。認定の規定については、別に定めます。



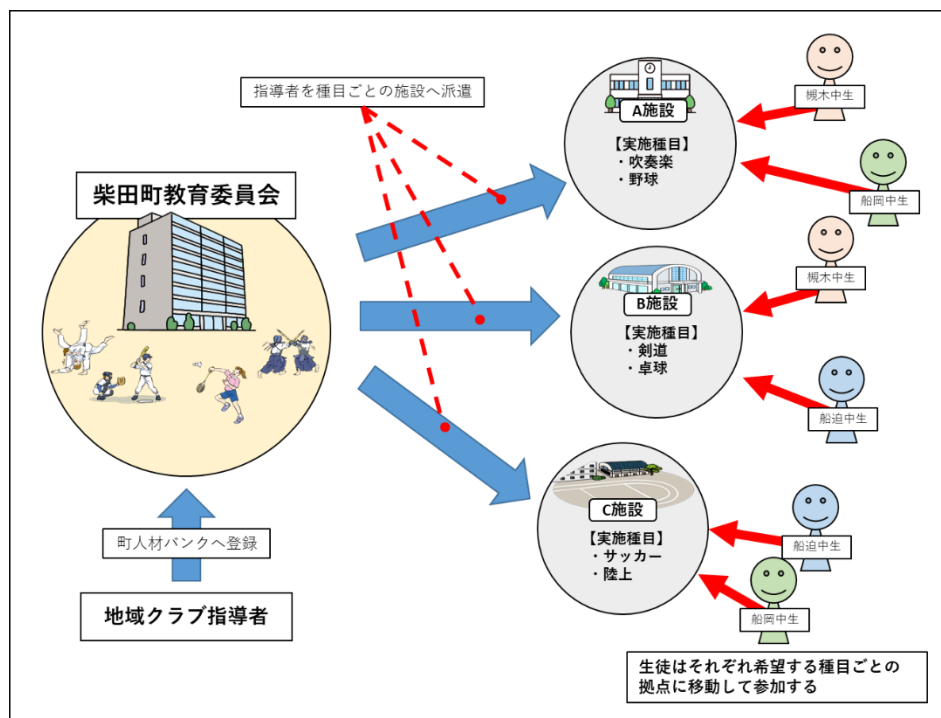
②【単独活動】それぞれの中学校で活動

教育委員会が指導者を学校へ派遣し、各中学校の生徒は、通っている中学校で実施される種目に参加し、活動する方法です。



③【合同活動】種目ごとの実施拠点に生徒が集まり活動

教育委員会が指導者を種目ごとの実施拠点に派遣し、各中学校の生徒は、参加を希望する種目が実施される拠点に集まって活動する方法です。



(2) 実施種目について

各年の実施種目の目安は下記の表のとおりです。実施種目については、準備の整った種目から段階的に移行を進めていくため、種目によっては開始年度が前後する場合があります。これらに加えて、既存部活動には無い、新規種目の体験会や継続的に活動する地域クラブの創出も検討していきます。

【各年度の実施種目数について】

実施年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
移行種目数	6種目	4種目	4種目	2種目

【既存部活動の地域クラブへの移行種目について】

No.	実施種目	実施方法	活動場所（案）
1	サッカー	合同	中学校 校庭
2	野球	単独	中学校 校庭
3	ソフトボール	合同	中学校 校庭
4	ソフトテニス	単独	中学校 テニスコート
5	バドミントン	単独、合同	中学校 体育館
6	男子バレーボール	合同	中学校 体育館
7	女子バレーボール	単独	中学校 体育館
8	男子バスケットボール	単独	中学校 体育館
9	女子バスケットボール	合同	中学校 体育館
10	卓球	単独	中学校・学習センター
11	剣道	単独	中学校 武道館
12	柔道	単独	中学校 武道館
13	陸上	合同	中学校 校庭
14	水泳	合同	宮城県仙南総合プール
15	美術	単独	中学校教室・学習センター
16	吹奏楽	合同	中学校教室・学習センター

【小学校の吹奏楽部の地域クラブへの移行について】

槻木小学校の吹奏楽部は、現在、教員が部活動の指導を行っています。地域人材による持続可能な指導を目指し、柴田町地域クラブの種目として移行を進めます。

実施種目	実施方法	活動場所（案）
吹奏楽	単独（槻木小学校の吹奏楽部を移行の対象として実施）	小学校

(3) 平日部活動の地域クラブへの移行について

部活動の将来的な地域クラブへの移行に向け、地域クラブを指導する指導者の確保や活動拠点の整備を行い、まずは、休日部活動から移行を進めていきます。

平日部活動の地域クラブへの移行については、国・県の動向や、中体連等の大会・コンクールの在り方について動向を見据えて、地域クラブへの移行の検討を行っていきます。

7 これまでの検討経過について

本計画は、スポーツ庁及び文化庁の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」並びに県の「学校部活動と地域のクラブ活動等のガイドライン」を基に、教育委員会内の部活動調整会議及び柴田町学校部活動地域移行検討協議会での検討を重ね、柴田町の学校部活動の状況、地域スポーツ・文化芸術の活動状況等、課題の抽出や今後の地域移行の方向性の検討を行い、策定したものです。今後、国・県の指針や方針が改定された場合には、必要に応じて見直しを行っていきます。

なお、教育委員会では、国・県の動向や、町内の部活動の地域移行に向けた取り組みについて周知することを目的に「部活動改革だより」を令和4年度から令和6年度にかけて4回発行してきました。

これまでの部活動調整会議及び柴田町検討協議会の開催経過、部活動改革だよりの発行は、下記のとおりとなります。

〈部活動調整会議の開催経過〉

年度	回	開催日	開催内容
令和4年度	1	令和4年7月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・国・県の動向の確認 ・町の方針についての情報共有 ・学校部活動の状況の確認 ・アンケート調査結果についての協議 ・検討協議会からの助言についての検討
	2	令和4年10月16日	
	3	令和4年10月22日	
	4	令和4年12月23日	
令和5年度	1	令和5年6月21日	
	2	令和5年9月28日	
	3	令和5年11月1日	
	4	令和6年1月4日	
	5	令和6年3月13日	
令和6年度	1	令和6年7月19日	
	2	令和6年10月15日	
	3	令和6年12月16日	

〈柴田町学校部活動地域移行検討協議会の開催経過〉

年度	回	開催日	開催内容
令和5年度	1	令和5年11月14日	・地域クラブへの移行に向けての課題の検討
	2	令和6年1月16日	
	3	令和6年3月19日	・地域移行に向けた課題対応策としての助言の提言
令和6年度	1	令和6年7月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの地域移行に向けた取り組みについて ・柴田町休日部活動地域移行推進計画について ・地域クラブの実施種目の検討
	2	令和6年10月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査について ・既存部活動の今後の方向性について ・新規種目の検討
	3	令和6年12月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クラブの実施種目及び実施方法について ・柴田町休日地域クラブ実施規定について ・柴田町地域クラブ認定について ・柴田町休日部活動地域移行推進計画について

〈検討協議会委員名簿〉

No.	氏名	所属及び職名	備考
1	松本 文弘	仙台大学 学長特別補佐	学識経験者
2	松田 松男	(柴田町体育協会) 柴田町スポーツ少年団本部 本部長	スポーツ・文化 団体の代表者
3	宮沢 秀夫	(柴田町文化協会) 奥州柴田一番太鼓 代表	スポーツ・文化 団体の代表者
4	佐藤 広昭	船岡中学校 校長	学校関係者
5	伊藤 由啓	槻木中学校 校長	学校関係者
6	加藤 敏充	船迫中学校 校長	学校関係者
7	澤井 文彦	(柴田町校長会 副会長) 船岡小学校 校長	学校関係者
8	佐藤 玲	槻木中学校 保護者代表	児童生徒保護者
9	庄司 愛子	船岡小学校 保護者代表	児童生徒保護者
10	玉渕 博之	(芸術・文化関係代表) 仙南地域広域行政事務組合 えずこホール館長	その他

〈部活動改革だよりの発行〉

No.	発行日	内容
1	令和4年10月20日	・休日の部活動の地域移行について
2	令和5年8月21日	・国・県の動向、柴田町の現状について ・部活動地域移行アンケート結果について
3	令和6年4月16日	・柴田町教育委員会の地域移行に向けた動きについて
4	令和6年6月17日	・町内の地域移行に向けた取り組みについて